



**IBM WebSphere Commerce Business Edition
IBM WebSphere Commerce Professional Edition**

**インストール・ガイド
Linux システム用**

バージョン 5.5



IBM WebSphere Commerce Business Edition
IBM WebSphere Commerce Professional Edition

インストール・ガイド
Linux システム用

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、155 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、下記の製品のバージョン 5.5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

- IBM WebSphere Commerce Business Edition for Linux (Intel platforms)
- IBM WebSphere Commerce Business Edition for Linux for @server pSeries
- IBM WebSphere Commerce Business Edition for Linux for @server iSeries
- IBM WebSphere Commerce Business Edition for Linux for @server zSeries および S/390
- IBM WebSphere Commerce Professional Edition for Linux (Intel platforms)

製品のレベルに合った適切な版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典 : IBM WebSphere Commerce Business Edition
IBM WebSphere Commerce Professional Edition
Installation Guide
for Linux systems
Version 5.5

発 行 : 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当 : ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

資料の説明

このインストール・ガイドは、Linux オペレーティング・システム上に IBM® WebSphere® Commerce Business Edition および IBM WebSphere Commerce Professional Edition をインストールして構成する方法について説明します。これは、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。

本書では、以下のプラットフォーム上で実行している Linux 向けのインストール手順を記載しています。

- IBM @server iSeries™ システム
- IBM @server pSeries™ システム
- IBM @server zSeries® および S/390® システム
- Intel® ベースのシステム

本書の更新

製品の最新の変更点について知りたい場合は、WebSphere Commerce CD 1 のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。さらに、本書のコピーおよび本書の更新バージョンは、次の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから PDF ファイルとして入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

本書の更新されたバージョンは、以下の WebSphere Developer Domain にある WebSphere Commerce Zone から入手することもできます。

<http://www.ibm.com/software/wsdd/zones/commerce/>

サポート情報は、以下の WebSphere Commerce サポート Web サイトで入手可能です。

<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>

本書の表記規則

本書では、以下のような強調規則を使用しています。

| | |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 太文字 | コマンド、またはフィールド名、アイコン名、またはメニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を示します。 |
| モノスペース (Monospace) | ファイル名、ディレクトリー・パス、ディレクトリーなど、そのとおりに入力する必要があるテキストの例を示します。 |
| イタリック体 | 単語を強調するために使用されます。またイタリック体は、システムに合わせて適切な値に置換する必要がある名前を示します。 |



このアイコンは、作業を完了するために役立つヒントとなる追加情報に付けられるマークです。

重要

このセクションでは、特に重要な情報が強調されます。

注意

このセクションでは、データを保護することを目的とした情報が強調されます。

Business

WebSphere Commerce Business Edition に固有の情報を示します。

Professional

WebSphere Commerce Professional Edition に固有の情報を示します。

DB2

DB2 Universal Database™、または DB2 Universal Database を WebSphere Commerce と共に使用した場合に固有の情報を示します。

本書で使用される用語

本書では、以下のような用語を使用しています。

セル セルとは、まとめて管理される WebSphere Application Server 分散ネットワーク内における、任意の複数のノードの論理グループです。この定義では、ノード は単一 WebSphere Application Server インスタンスのことです。WebSphere Application Server デプロイメント・マネージャーの単一オカレンスによって管理される複数のセルは、*WebSphere Application Server* デプロイメント・マネージャー・セル と呼ばれます。

クラスター

同じエンタープライズ・アプリケーションを実行している WebSphere Application Server のオカレンスのグループ。前のリリースでは、クラスターはサーバー・グループまたは複製として知られていました。クラスターを作成することをクラスタリング と呼びます。前のリリースでは、クラスタリングは複製 として知られていました。

クラスター・メンバー

クラスター内の WebSphere Application Server の単一オカレンス。

連合 セルに対する WebSphere Application Server の単一オカレンスを収集して、そのオカレンスをまとめて管理します。

ノード 本書では、使われている文脈に応じて、ノードは 2 つの異なる意味を持ちます。

WebSphere Commerce インストール

WebSphere Commerce インストール手順では、ノードとは、複数の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールする固有の IP ホスト・アドレスを持つ、単一マシンまたはマシン・パーティションを表します。

クラスタリング

クラスタリングについて説明している場合、ノードとは、WebSphere Application Server および WebSphere Application Server のオカレンスの内側で実行するアプリケーションの単一オカレンスを表します。セル内のノードは、同じセル内の他のノードと同じエンタープライズ・アプリケーションを実行する場合としない場合があります。

パス変数

このガイドでは、ディレクトリー・パスを表すために以下の変数を使用します。

DB2_installdir

これは DB2 Universal Database 用のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/IBM/db2/V8.1` です。

HTTPServer_installdir

これは IBM HTTP Server 用のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/IBMHttpServer` です。

WAS_installdir

これは WebSphere Application Server 用のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/AppServer` です。

WAS_ND_installdir

これは WebSphere Application Server Network Deployment 用のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/DeploymentManager` です。

WC_installdir

これは WebSphere Commerce 用のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/CommerceServer55` です。

前提知識

本書は、システム管理者または WebSphere Commerce のインストールおよび構成の担当者を対象にしています。

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するユーザーは、以下の領域に関する知識を持っている必要があります。

- Linux
- 基本オペレーティング・システム・コマンド
- DB2 Universal Database

- IBM HTTP Server 操作および保守
- 基本 SQL コマンド
- インターネット

WebSphere Commerce の構成および管理に関する情報については、
「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」および「*WebSphere Commerce セキュリテイ
ー・ガイド*」を参照してください。

ストアを作成およびカスタマイズするには、以下の知識が必要になります。

- WebSphere Application Server
- DB2 Universal Database
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java™ プログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズについては、「*WebSphere Commerce プ
ログラミング・ガイドとチュートリアル*」を参照してください。本書のコピーに
は、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio の両方が含まれていま
す。

目次

| | |
|------------|-----|
| 本書について | iii |
| 資料の説明 | iii |
| 本書の更新 | iii |
| 本書の表記規則 | iii |
| 本書で使用される用語 | iv |
| パス変数 | v |
| 前提知識 | v |

第 1 部 WebSphere Commerce のインストール準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ 3

| | |
|-------------------------------------------|---|
| WebSphere Commerce に組み込まれている製品 | 3 |
| すでにインストール済みのコンポーネント | 4 |
| IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16 | 4 |
| IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 | 5 |
| サポートされる Web ブラウザー | 6 |
| WebSphere Commerce により使用されるポート番号 | 6 |
| WebSphere Commerce により使用されるロケール | 8 |

第 2 章 プリインストール要件 9

| | |
|----------------------------------------------------|----|
| ハードウェア前提条件 | 9 |
| Intel ベース・システム上の Linux のハードウェア前提条件 | 9 |
| @server iSeries システム上の Linux のハードウェア前提条件 | 9 |
| @server pSeries システム上の Linux のハードウェア前提条件 | 10 |
| @server zSeries および S/390 システム上の Linux のハードウェア前提条件 | 11 |
| ソフトウェア前提条件 | 12 |
| Intel ベース・システム上の Linux のオペレーティング・システム要件 | 12 |
| @server iSeries システム上の Linux のソフトウェア前提条件 | 12 |
| @server pSeries システム上の Linux のソフトウェア前提条件 | 12 |
| @server zSeries および S/390 システム上の Linux のソフトウェア前提条件 | 13 |
| ネットワーク構成要件 | 13 |
| README ファイルの確認 | 14 |
| その他の要件 | 14 |

第 3 章 WebSphere Commerce のインストール方法 15

第 2 部 データベースのインストール 17

第 4 章 WebSphere Commerce を用いたローカル・データベースの使用 19

| | |
|---------------------------------------------------------------|----|
| ローカル WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用 | 19 |
| 次のステップ | 19 |

第 5 章 WebSphere Commerce を用いたリモート・データベースの使用 21

| | |
|---------------------------------------------------------------|----|
| リモート WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用 | 21 |
| 次のステップ | 21 |

第 3 部 WebSphere Commerce のインストール 23

第 6 章 WebSphere Commerce をインストールする前に 25

| | |
|-----------------------------------------------|----|
| 必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成 | 25 |
| プリインストール・チェックリスト | 26 |
| インストール・タイプの選択 | 27 |
| 高速インストール | 27 |
| 通常の 1 ノード・インストール | 28 |
| 通常の 3 ノード・インストール | 28 |
| カスタム・インストール | 31 |
| @server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送 | 33 |

第 7 章 インストールに必要な ID のクック・リファレンス 35

| | |
|------------------------------------|----|
| インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID | 36 |
| DB2 Universal Database ユーザー ID の要件 | 37 |

第 8 章 標準インストールの実行 39

| | |
|----------------------------------------------------------|----|
| 通常の 1 ノード・インストールの実行 | 39 |
| 通常の 3 ノード・インストールの実行 | 42 |
| 通常の 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール | 42 |
| 通常の 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール | 46 |
| 一般的な 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール | 49 |
| 次のステップ | 52 |

第 9 章 カスタム・インストールの実行 53

| | |
|----------------|----|
| カスタム・インストールの実行 | 55 |
| 次のステップ | 58 |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 第 10 章 インストールの検証 | 59 |
| DB2 Universal Database インストール・ログ | 59 |
| WebSphere Application Server インストール・ログ | 60 |
| WebSphere Commerce インストール・ログ | 60 |
| 次のステップ | 60 |
| <hr/> | |
| 第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 61 |
| 第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に | 63 |
| 構成マネージャーの前提条件 | 63 |
| 構成マネージャーの開始 | 63 |
| 次のステップ | 66 |
| 第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 67 |
| 新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 67 |
| インスタンス作成の検証 | 68 |
| 次のステップ | 69 |
| 第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 71 |
| 新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 71 |
| インスタンス作成の検証 | 72 |
| 次のステップ | 73 |
| <hr/> | |
| 第 5 部 最終ステップ | 75 |
| 第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク | 77 |
| インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク | 77 |
| インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク | 77 |
| 第 15 章 インスタンス作成後の推奨タスク | 79 |
| <hr/> | |
| 第 6 部 拡張構成オプション | 81 |
| 第 16 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 83 |
| 前提条件 | 84 |
| 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 85 |
| 複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 86 |
| 複数インスタンスのテスト | 86 |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 第 17 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合 | 89 |
| WebSphere Commerce の連合 | 89 |
| WebSphere Commerce Payments の連合 | 92 |
| プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更 | 94 |
| セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去 | 95 |
| 第 18 章 WebSphere Commerce のクラスタ化 | 97 |
| 水平的な複製におけるクラスタ化 | 99 |
| 垂直的な複製におけるクラスタ化 | 100 |
| 水平的な複製の準備 | 100 |
| WebSphere Commerce クラスタの作成 | 101 |
| JDBC プロバイダー・パスの確認 | 102 |
| WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する | 103 |
| インスタンス情報のコピー | 105 |
| WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報のコピー | 105 |
| 追加クラスタ・メンバーの追加 | 106 |
| WebSphere Commerce クラスタの開始と停止 | 108 |
| クラスタ・メンバーの除去 | 108 |
| WebSphere Commerce クラスタへのストアの発行 | 109 |
| 水平的な複製を持つクラスタへのストアの発行 | 109 |
| 垂直的な複製を持つクラスタへのストアの発行 | 109 |
| <hr/> | |
| 第 7 部 インストールおよび管理タスク | 111 |
| 第 19 章 WebSphere Commerce のタスク | 113 |
| WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止 | 113 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止 | 113 |
| WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更 | 114 |
| WebSphere Commerce インスタンスの削除 | 114 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除 | 116 |
| 第 20 章 WebSphere Application Server のタスク | 119 |
| アプリケーション・サーバーの開始および停止 | 119 |
| WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止 | 120 |
| WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止 | 120 |
| WebSphere Application Server 管理コンソールの開始 | 121 |

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| WebSphere Application Server Network Deployment の元でのアプリケーション・サーバーの開始および 停止 | 121 |
| WebSphere Application Server Web サーバー・プラ グイン構成ファイルの再生成 | 122 |

第 21 章 リモート Web サーバー・タ スク 125

| | |
|-------------------------------------------------------------------|-----|
| Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピ ー | 125 |
| WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファ イルのマージ | 125 |
| ストア発行後のタスク | 127 |

第 22 章 パスワードの設定および変更 129

| | |
|-------------------------------------------------|-----|
| 構成マネージャー・パスワードの変更 | 129 |
| WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変 更 | 129 |
| サイト管理者パスワードのリセット | 130 |
| サイト管理者 ID のリカバリー | 131 |

第 23 章 一般管理用タスク 133

| | |
|--------------------------------|-----|
| コマンド行構成タスク | 133 |
| リモート DB2 データベースのカタログ | 133 |

第 24 章 WebSphere Commerce を管 理する際に必要なユーザー ID 135

第 8 部 付録 137

付録 A. 既知の問題および制限 139

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 一般的な問題および制限 | 139 |
| WebSphere Commerce コマンドを発行時にエラ ーを受け取った | 139 |
| インストール問題および制限 | 139 |
| コンソール・モードでインストールするとフリ ー・スペース・メッセージが変更されない | 139 |
| 以前のバージョンの DB2 Universal Database が インストールされているマシンで生じるインス トール問題 | 139 |
| Web サーバー問題および制限 | 140 |
| セキュア (HTTPS) URL が作動しない | 140 |
| WebSphere Commerce インスタンス問題および制限 | 140 |
| createsp.log ファイルにエラーが含まれる | 140 |
| WebSphere Commerce インストール言語以外の デフォルト言語による WebSphere Commerce イ ンスタンスの作成 | 141 |

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------|-----|
| インスタンス作成中にメモリー不足エラーが発生 する | 142 |
| 非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce インスタンスが開始しな い | 142 |
| ポート競合をログ内に表示する | 143 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンス問題 および制限 | 143 |
| リモート WebSphere Commerce Payments イン スタンスが作動しない | 143 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスが 開始しない | 144 |
| 非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce Payments インスタンスが 開始しない | 145 |
| WebSphere Application Server 問題および制限 | 146 |
| addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻 す | 146 |
| removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを 戻す | 146 |

付録 B. WebSphere Commerce コン ポーネントのアンインストール 147

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネ ージャー・クライアントのアンインストール | 147 |
| WebSphere Application Server のアンインストール | 149 |
| WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストール | 149 |
| IBM HTTP Server のアンインストール | 149 |
| DB2 Universal Database のアンインストール | 149 |

付録 C. 情報の入手場所 151

| | |
|------------------------------------------------|-----|
| WebSphere Commerce 情報 | 151 |
| WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ | 151 |
| WebSphere Commerce Technical Library | 151 |
| WebSphere Commerce Payments 情報 | 151 |
| IBM HTTP Server 情報 | 153 |
| WebSphere Application Server 情報 | 153 |
| DB2 Universal Database 情報 | 153 |
| 他の IBM 資料 | 153 |

特記事項 155

| | |
|--------------|-----|
| 商標 | 156 |
|--------------|-----|

第 1 部 WebSphere Commerce のインストール準備

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

このガイドは、Linux 用の IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 のインストールおよび構成の方法について説明します。これは、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。


WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 または WebSphere Commerce バージョン 5.4 をインストール済みの場合、必要に応じてバージョン 5.1 用の「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」、またはバージョン 5.4 用の「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」で説明されているマイグレーション・ステップに従ってください。マイグレーション・ガイドは、以下の WebSphere Commerce Technical Library から入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

WebSphere Commerce に組み込まれている製品

以下の製品が WebSphere Commerce と共にパッケージされています。

- WebSphere Commerce:
 - WebSphere Commerce サーバー。これには以下が含まれます。
 - LikeMinds クライアント
 - 商品アドバイザー
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - WebSphere Commerce 組織管理コンソール
 - WebSphere Commerce Payments。これには以下が含まれます。
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech
 - WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette
 - WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette
 - Blaze Rules Server バージョン 4.5.5、および Blaze Innovator Runtime バージョン 4.5.5
 - WebSphere Commerce Analyzer
 - LikeMinds で駆動する WebSphere Commerce Recommendation Engine
- IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16 Enterprise Edition (DB2 Universal Database バージョン 8.1 Enterprise Edition FixPak 2)。これには以下が含まれます。
 - DB2 Universal Database 管理クライアント
- IBM DB2[®] Text Extender 8.1
- IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2
- IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2

- IBM Directory Server バージョン 5.1
-  IBM Lotus® QuickPlace® バージョン 3.0
- IBM Lotus Sametime® バージョン 3.0

すでにインストール済みのコンポーネント

このセクションでは、WebSphere Commerce バージョン 5.5 で組み込まれた IBM 製品のいずれかをすでにインストール済みの場合に実行する必要があるタスクについて説明します。

WebSphere Commerce をインストールする前に、WebSphere Commerce で使用される IBM 以外のソフトウェアをインストールする必要があります。IBM 以外のソフトウェアに関する手順は、本書に記載しています。

IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16

現在、IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1 Workgroup Edition を使用している場合、それを IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16 Enterprise Edition へアップグレードすることが必要になります。

さらに、DB2 アプリケーション開発クライアントがインストール済みであることを確認してください。WebSphere Commerce では、DB2 アプリケーション開発クライアントが正しく機能する必要があります。

現在、IBM DB2 Universal Database、バージョン 8.1 Enterprise Edition を使用している場合、DB2 バージョン 8.1、FixPak 2 を適用する必要があります。

IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16 Enterprise Edition がすでにインストール済みの場合は、以下を行います。

1. 25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』で概説しているように、WebSphere Application Server が必要とするユーザー ID を作成します。これらのユーザー ID について詳しくは、35 ページの『第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』で説明されています。

WebSphere Commerce の非 root ユーザー ID として、mqm またはデータベース・ユーザー ID 以外のユーザー ID を使用できます。非 root ユーザー ID は、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments ノード上でアプリケーション・サーバーを始動するのに使用します。root としてアプリケーション・サーバーを始動すると、主要な WebSphere Commerce ファイルの許可が変更され、WebSphere Commerce の正常な機能が妨げられるため、root としてアプリケーション・サーバーの始動は実行しないように強くお勧めします。

ユーザー ID およびグループの作成方法について詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

パスワードなしでユーザー ID を作成することもできるため、このユーザー ID のパスワードを設定していることを確認します。このユーザー ID にこれに関連したパスワードがない場合、WebSphere Commerce は正しく機能しない場合があります。

2. DB2 分離ユーザー・グループを WebSphere Commerce 非 root ユーザー ID に関連したグループのリストに追加します。
3. DB2 分離ユーザー・グループを DB2 Universal Database ユーザー ID に関連したグループのリストに追加します。

DB2 分離ユーザー・グループについては、DB2 Universal Database 資料をご覧ください。

4. DB2 Universal Database を再始動します。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2

テスト用 SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルの準備

ご使用のシステムに IBM HTTP Server をすでにインストール済みの場合、SSL が使用可能になっていることを確認する必要があります。SSL が使用可能な場合、以下の URL を Web ブラウザーで開くことができます。

`https://host_name`

`host_name` は、IBM HTTP Server を実行しているマシンの完全修飾ホスト名です。

上の URL を開くことができない場合には、Web サーバーで SSL を使用可能にする必要があります。SSL の使用可能化について詳しくは、IBM HTTP Server 資料を参照してください。

ストアをショッパーに対してオープンする前に、「*WebSphere Commerce セキュリティアーキテクチャガイド*」を確認してください。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 および IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 および IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 がすでにインストール済みの場合は、以下を行います。

1. WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルが存在するかどうかを確認してください。以下は、プラグイン構成ファイルの絶対パスです。

`WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

2. `plugin-cfg.xml` ファイルの存在に応じて、以下のいずれかを行います。

- `plugin-cfg.xml` ファイルが存在する場合、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていることを確認します。以下の 4 行がファイルに存在している必要があります。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/
```

```
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/
```

```
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/  
mod_ibm_app_server_http.so
```

```
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒に表示されない可能性があります。これらの行が存在するかどうかを確かめるためにファイル上でテキスト検索を実行することもできます。これらの行がない場合、ファイルの最後にこれらを追加して Web サーバーを再始動します。

- plugin-cfg.xml ファイルが存在しない場合、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていない ことを確認します。以下の 4 行がファイルに存在してはなりません。以下の 4 行のいずれかが存在する場合には、それらをファイルから除去します。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/  
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/  
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/  
mod_ibm_app_server_http.so  
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒に表示されない可能性があります。 — これらの行が存在するかどうかを確認するためにファイル上でテキスト検索を実行することもできます。これらの行のいずれかが存在する場合、それを除去し、変更内容を保管してから Web サーバーを再始動します。

サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce ツールおよびオンライン・ヘルプは、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上で Windows® オペレーティング・システムを実行しているマシンから Microsoft® Internet Explorer 6.0 を使用してのみ利用できます。Internet Explorer は、6.0 のフル・バージョン (Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 および Internet Tools としても知られる) あるいはそれ以降に対して Microsoft による最新の重要なセキュリティー更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

ショッピングは、以下の Web ブラウザーのいずれかを使用して Web サイトにアクセスでき、そのすべてが WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Windows 用 AOL 7 またはそれ以降
- Microsoft Internet Explorer:
 - Windows 用バージョン 6 またはそれ以降
 - Macintosh 用バージョン 5 またはそれ以降
- Netscape:
 - Windows 用バージョン 6.1 またはそれ以降
 - Linux 用バージョン 6.2.3 またはそれ以降
- Netscape Navigator:
 - Windows 用バージョン 4.51 またはそれ以降
 - Linux 用バージョン 4.79 またはそれ以降

WebSphere Commerce により使用されるポート番号

以下は、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品により使用されるデフォルトのポート番号のリストです。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションにこれらのポートを使用しないでください。ご使用のシステムでファイアウォールを構成している場合、これらのポートにアクセスできることを確認します。

どのポートが使用中かを知るには、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

重要

このセクションでは、WebSphere Commerce の付属ソフトウェアが必要なポートのみをリストします。IBM 以外のソフトウェアが必要とするポート番号については、IBM 以外のソフトウェア・パッケージに関する資料を参照してください。

ポート番号

使用される

- 21** FTP ポート。このポートは、リモート Web サーバーを使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合に必要です。
- 80** IBM HTTP Server。
- 389** Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー。
- 443** IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。
- 2809** WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。
- 5432** WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。
- 5433** WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 5557** WebSphere Application Server Internal Java Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバー・キュー・アドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service 直接アドレス。
- 7873** WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000** WebSphere Commerce Tool。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 8002** WebSphere Commerce 管理コンソール。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 8004** WebSphere Commerce 組織管理コンソール。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 8008** IBM HTTP Server 管理ポート。
- 8880** WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043** WebSphere Application Server 管理コンソール・セキュア・ポート。このセキュア・ポートは SSL を必要とします。
- 9080** WebSphere Application Server HTTP トランスポート。

- 9090 WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。
 - 9443 WebSphere Application Server HTTPS トランスポート・ポート。
 - 9501 WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。
 - 9502 WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
 - 9503 WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
 - 50000 DB2 サーバー・ポート。
- 少なくとも 60000 またはそれ以降の 1 つのポート。
DB2 TCP/IP 通信。

WebSphere Commerce により使用されるロケール

WebSphere Commerce は、有効な Java ロケールのみを使用します。システムに、使用する言語用の適切なロケールがインストールされていることを確認してください。ロケール関連の環境変数が WebSphere Commerce サポート・ロケールを組み込むよう設定されていることを確認してください。

表 1. WebSphere Commerce がサポートする Linux ロケール・コード

| 言語 | ロケール・コード | LC_ALL 値 |
|-------------|----------|----------|
| ドイツ語 | de_DE | de_DE |
| 英語 | en_US | en_US |
| スペイン語 | es_ES | es_ES |
| フランス語 | fr_FR | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT | it_IT |
| 日本語 | Ja_JP | Ja_JP |
| 韓国語 | ko_KR | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW | zh_TW |

注: SuSE Linux Enterprise Server 8 オペレーティング・システムは、以下のロケールをサポートしません。

- 中国語 (繁体字) (zh_TW)

ご使用のロケールを判別するには、以下のコマンドを実行してください。

```
echo $LANG
```

ご使用のロケールがサポートされていない場合、root ユーザーとして以下のコマンドを実行することによって、ロケール・プロパティを変更してください。

```
LANG=xx_XX
export LANG
```

ここで xx_XX は、上記の表に示されている 4 文字のロケール・コードです。大文字小文字の別は、表のとおりでなければなりません。

第 2 章 プリインストール要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に実行する必要があるステップについて説明します。この資料で説明されているステップを実行するには、root ユーザー・アクセスがなければなりません。

ハードウェア前提条件

WebSphere Commerce のインストールの前に、次の最低限のハードウェア要件を満たしている必要があります。

Intel ベース・システム上の Linux のハードウェア前提条件

専用の Pentium® III 733 MHz (実稼働環境ではさらに高性能のものを推奨) の IBM 互換システムには以下の要件があります。

- 各プロセッサに最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)
この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、プロセッサでさらに 512 MB の RAM が必要です。
- 最低 4 GB の空きディスク・スペース
- 各プロセッサに最低 1 GB のページング・スペース
この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、各プロセッサにさらに 1 GB のページング・スペースが必要です。
- CD-ROM ドライブ
- グラフィック対応モニター
- マウスまたは他のポインティング・デバイス
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

@server iSeries システム上の Linux のハードウェア前提条件

Linux は、論理区画上の、選択された @server iSeries システムで実行されます。Linux をサポートする @server iSeries モデルのリストについては、次の URL を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/linux/hardware.html>

Linux をサポートしていることに加え、@server iSeries システムは次の要件も満たしていなければなりません。

- 各プロセッサに最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)

この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、各プロセッサにさらに 1 GB から 1.5 GB の RAM が必要です。

- 最低 4 GB の空きディスク・スペース
- 各プロセッサに最低 1 GB のページング・スペース

この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、各プロセッサにさらに 1 GB のページング・スペースが必要です。

- CD-ROM ドライブ
- グラフィック対応モニター
- マウスまたは他のポインティング・デバイス
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

サーバーに加え、次のものも必要です。

- グラフィック対応モニター、およびマウスか他のポインティング・デバイスのある Windows、Linux、または UNIX[®] マシン

このワークステーションは、Telnet で @server iSeries に接続してインストール・ウィザードを実行するために必要です。

- Internet Explorer などの Web ブラウザーをグラフィック対応モニターで実行できる、Windows ワークステーション

このワークステーションは、WebSphere Commerce ツール (たとえば WebSphere Commerce アクセラレーター) にアクセスするために必要です。

@server pSeries システム上の Linux のハードウェア前提条件

Linux は選択された @server pSeries システム上でサポートされます。Linux でサポートされる @server pSeries システムおよび周辺装置のリストについては、次の資料を参照してください。

http://www.ibm.com/servers/eserver/pseries/hardware/linux_facts.pdf

Linux をサポートしていることに加え、@server pSeries システムは次の要件も満たしていなければなりません。

- 各プロセッサに最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)

この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、プロセッサでさらに 512 MB の RAM が必要です。

- 最低 4 GB の空きディスク・スペース
- 各プロセッサに最低 1 GB のページング・スペース

この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の

WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、各プロセッサにさらに 1 GB のページング・スペースが必要です。

- CD-ROM ドライブ
- グラフィック対応モニター
- マウスまたは他のポインティング・デバイス
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

サーバーに加え、Windows オペレーティング・システムが実行され、グラフィック対応モニターで Internet Explorer などの Web ブラウザーを実行できるワークステーションが必要です。このワークステーションは、WebSphere Commerce ツール (たとえば WebSphere Commerce アクセラレーター) にアクセスするために必要です。

@server zSeries および S/390 システム上の Linux のハードウェア前提条件

次の仕様を満たしている @server zSeries または S/390 システムが実行されていることが必要です。

- 各 Linux インスタンスで最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)
- 各 Linux インスタンスで最低 2 GB のページング・スペース
- Linux システム用に 1 つのフル・ボリューム (3300 シリンダー) 空きディスク・スペース
- WebSphere Commerce、WebSphere Application Server、および DB2 Universal Database 用に 1 つのフル・ボリューム (3300 シリンダー) 空きディスク・スペース
- ワークステーションから @server zSeries または S/390 に転送される WebSphere Commerce CD のコンテンツ用に 1 つのフル・ボリューム (3300 シリンダー) 一時的な空きディスク・スペース
- CD-ROM ドライブ
- グラフィック対応モニター
- マウスまたは他のポインティング・デバイス
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

サーバーに加え、次のものも必要です。

- グラフィック対応モニター、および CD-ROM ドライブのある Windows、Linux、または UNIX マシン

このマシンで、最低 1 GB の空きディスクが使用できることを確認してください。この空きディスク・スペースは、@server zSeries または S/390 マシンへの転送用の WebSphere Commerce CD をパッケージ化する際に必要となります。

- Internet Explorer などの Web ブラウザーをグラフィック対応モニターで実行できる、Windows ワークステーション

このワークステーションは、WebSphere Commerce ツール (たとえば WebSphere Commerce アクセラレーター) にアクセスするために必要です。

ソフトウェア前提条件

WebSphere Commerce のインストールの前に、次の最低限のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

Intel ベース・システム上の Linux のオペレーティング・システム要件

WebSphere Commerce では、次のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Red Hat Enterprise Linux AS (以前の Red Hat Linux Advanced Server) バージョン 2.1

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-13
- ncurses-5.2-12

- SuSE Linux Enterprise Server 8

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-532
- ncurses-5.2-402

次のコマンドを発行すると、パッケージの可用性をチェックできます。

```
rpm -qa | grep package_name
```

必要なパッケージがインストールされていない場合には、WebSphere Commerce のインストールの前にそのパッケージをインストールする必要があります。

@server iSeries システム上の Linux のソフトウェア前提条件

WebSphere Commerce では、SuSE Linux Enterprise Server 8 (64 ビットのサポートのみ) が必要です。

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-433

次のコマンドを発行すると、パッケージの可用性をチェックできます。

```
rpm -qa | grep package_name
```

必要なパッケージがインストールされていない場合には、WebSphere Commerce のインストールの前にそのパッケージをインストールする必要があります。

@server pSeries システム上の Linux のソフトウェア前提条件

WebSphere Commerce では、SuSE Linux Enterprise Server 8 (64 ビットのサポートのみ) が必要です。

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-433

次のコマンドを発行すると、パッケージの可用性をチェックできます。


```
rpm -qa | grep package_name
```

必要なパッケージがインストールされていない場合には、 WebSphere Commerce のインストールの前にそのパッケージをインストールする必要があります。

@server zSeries および S/390 システム上の Linux のソフトウェア前提条件

WebSphere Commerce では、次のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Red Hat Linux 7.2

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-13
- compat-libstdc++-2.10.0-1

- SuSE Linux Enterprise Server 8

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

- pdksh-5.2.14-337

次のコマンドを発行すると、必要なパッケージの可用性をチェックできます。

```
rpm -qa | grep package_name
```

これらのパッケージがインストールされていない場合には、 WebSphere Commerce のインストールの前にそのパッケージをインストールする必要があります。

WebSphere Commerce サイトを管理するために使用するマシンが Windows 2000 オペレーティング・システムを実行している場合、 Linux インストール・システムに X Server があり、X Server が実行されていることを確認してください。

ネットワーク構成要件

ハードウェアおよびソフトウェアの要件に加え、システムのネットワーク構成が次の要件を満たしていることを確認してください。

- システムに解決可能なドメイン・ネームがなければなりません。

ドメイン・ネームと結合されたホスト名は、完全修飾ホスト名です。たとえば、ホスト名が *system1* でドメインが *domain.net* の場合、完全修飾ホスト名は *system1.domain.net* となります。

コマンド・プロンプト・セッションから次のコマンドを発行すると、システムの IP アドレスが戻ってくるはずですが、

```
nslookup 'fully_qualified_host_name'
```

システムの正しい IP アドレスが戻されるのが、望ましい応答です。

- システムの IP アドレスはホスト名 (ドメインを含む) を解決する必要があります。 IP アドレスが完全修飾ホスト名にマップされたかどうかを判別するには、コマンド・プロンプト・セッションを開始して次のコマンドを発行します。

```
nslookup 'IP_address'
```

システムの完全修飾ホスト名が戻されるのが、望ましい応答です。

README ファイルの確認

README ファイルの確認は、WebSphere Commerce のインストールにおける重要な前提条件です。README ファイルには、製品の最新の変更点に関する情報が含まれています。最新の変更には、WebSphere Commerce を使用する前にインストールしなければならない追加の修正が含まれている可能性があります。

README ファイルにリストされている最新の修正をインストールしないと、WebSphere Commerce は正しく機能しません。

README ファイルは、WebSphere Commerce CD 1 のルート・ディレクトリーにあります。README ファイル名は次のようになっています。

`readme_language_code.htm`

ここで、`language_code` は次のいずれかです。

| 言語 | 言語コード |
|-------------|-------|
| ドイツ語 | de_DE |
| 英語 | en_US |
| スペイン語 | es_ES |
| フランス語 | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT |
| 日本語 | ja_JP |
| 韓国語 | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

その他の要件

また、次の事柄も実行する必要があります。

- WebSphere Commerce のインストールの前に、すべての Web サーバー、Java アプリケーション・サーバー、および必須ではない Java プロセスを停止します。
- WebSphere Commerce のインストールの前に、その他の InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了しているか、または停止していることを確認します。
- Apache Web Server がシステムにインストールされている場合には、システムからアンインストールします。
- Lotus Notes[®]、または他のサーバーをマシン上で実行している場合、サーバーを停止します。マシン上でポート 80、443、5442、5443、8000、8002、および 8004 を現在使用している Web サーバーがあれば、それを使用不可にします。

第 3 章 WebSphere Commerce のインストール方法

この章では、WebSphere Commerce を正常にインストールするために実行する必要のあるステップの概略について説明します。

WebSphere Commerce のインストールおよび構成を正常に完了するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere Commerce の構成について計画を立てます。

構成の計画において、データベースおよび Web サーバーを含む、WebSphere Commerce のさまざまなコンポーネントをインストールするマシンの数を決定する必要があります。

27 ページの『インストール・タイプの選択』で述べられている WebSphere Commerce インストール・ウィザードでサポートされるインストール構成に関する説明を確認し、構成を計画する際に役立ててください。

2. 計画した構成のすべてのノードが、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で概略されている前提条件を満たしていることを確認します。
3. 17 ページの『第 2 部 データベースのインストール』で述べられている情報に従って、データベースをインストールして構成します。
データベースをインストールして構成する前に、このセクションのすべての章について確認してください。
4. WebSphere Commerce で必要なオペレーティング・システムのユーザー ID およびグループを作成します。詳細については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
5. WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完成するのに必要な ID および情報すべてを収集します。この情報は、35 ページの『第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』で概略が説明されています。
6. 26 ページの『プリインストール・チェックリスト』で提供されているプリインストール・チェックリストを完成させ、WebSphere Commerce のインストールの準備ができていることを確認します。
7. 計画した構成および 23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』で説明されている情報に基づいて、WebSphere Commerce をインストールします。
WebSphere Commerce をインストールして構成する前に、このセクションのすべての章について確認してください。
8. 61 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』で述べられている情報に従って、WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。

重要

WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合、サイト管理者ユーザー ID およびパスワードを作成します。このユーザー ID およびパスワードをインスタンス作成後も覚えておくのは重要なことです。これは、WebSphere Commerce 管理コンソール、WebSphere Commerce 組織管理コンソール、および WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスできる唯一のユーザー ID になります。

サイト管理者パスワードを忘れた場合、130 ページの『サイト管理者パスワードのリセット』にある説明に従ってパスワードをリセットできます。

サイト管理者 ID を忘れた場合には、131 ページの『サイト管理者 ID のリカバリー』にある説明に従って ID を回復できます。

9. 77 ページの『第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク』に概略が説明されているインスタンス作成後の必須タスクを完了します。

これらのステップを完了したなら、79 ページの『第 15 章 インスタンス作成後の推奨タスク』に概略が説明されているすべてのタスクを実行する準備が整いました。

第 2 部 データベースのインストール

Linux 用の WebSphere Commerce は DB2 Universal Database をサポートします。このデータベースは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じノード上か、リモート・ノード上にインストールできます。

WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードで実行しているデータベースを使用する場合は、19 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce を用いたローカル・データベースの使用』にある手順に従ってください。

WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments と異なるノードで実行しているデータベースを使用する場合は、21 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce を用いたリモート・データベースの使用』にある手順に従ってください。

第 4 章 WebSphere Commerce を用いたローカル・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments およびデータベース管理システムは同じノードにインストールされます。

ローカル WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用

ローカル WebSphere Commerce データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合、追加のステップは必要ありません。WebSphere Commerce インスタンス作成の一部として、DB2 Universal Database はインストールされ、WebSphere Commerce データベースは作成されて構成されます。

23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

次のステップ

この章の説明を完了した後、23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

第 5 章 WebSphere Commerce を用いたリモート・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce データベースは別々のノードにインストールされます。

リモート WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用

リモート WebSphere Commerce データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合、追加のステップは必要ありません。WebSphere Commerce インストール・ウィザードは、DB2 管理クライアントを WebSphere Commerce ノード上にインストールして構成します。また WebSphere Commerce インストール・ウィザードは、データベース・サーバー・ノード上に DB2 Universal Database をインストールするのにも使用します。

23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

次のステップ

この章の説明を完了した後、23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

第 3 部 WebSphere Commerce のインストール

第 6 章 WebSphere Commerce をインストールする前に

このセクションでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用する前に完了しなければならない作業について説明します。WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用する前に、以下の作業を行う必要があります。

1. WebSphere Commerce や WebSphere Commerce Payments をインストールするマシンに、WebSphere Application Server で必要なユーザー ID とグループを作成します。手順については、『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. プリインストール・チェックリストを完成させ、すべてのプリインストール要件が満たされていることを確認します。プリインストール・チェックリストは 26 ページの『プリインストール・チェックリスト』にあります。
3. 27 ページの『インストール・タイプの選択』にある説明に基づき、インストール・タイプを選択します。このセクションの説明には、選択したタイプのインストールを完了するのに適した指示が含まれています。
4. (@server zSeries および S/390 ユーザーのみ) 必要なインストール・ファイルを、ワークステーションから @server zSeries または S/390 に転送します。手順については、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。

必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成

WebSphere Commerce コンポーネント (WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを含む) をインストールするマシンで、以下の作業を行います。

1. root としてログオンします。
2. 非 root のユーザー ID を作成し、その新規ユーザー ID のパスワードを指定します。

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のアプリケーション・サーバー、および WebSphere Commerce 構成マネージャーのサーバーとクライアントを始動するには、このユーザー ID を使用する必要があります。root を使用してこれらのコンポーネントを始動すると、許可に関する問題が発生し、WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャーが正しく機能しなくなります。

デフォルトでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードは **wasuser** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID として指定し、**wasgroup** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として指定します。このユーザーとグループを作成するか、インストール・ウィザードのデフォルト値を別のユーザー ID やグループで置き換えることができます。

3. 新規のユーザー・グループを作成し、非 root のユーザー ID をその新規グループに追加します。

非 root のユーザー ID、非 root のユーザーのユーザー・グループ ID、および非 root のユーザーのホーム・ディレクトリーをメモしておいてください。この情報は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完了するために必要になります。

4. WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・コンポーネントに必要なユーザー ID とグループを作成します。これらのユーザー ID とグループは、WebSphere Application Server を正しくインストールするために必要です。必要なユーザー ID とグループは、以下のように作成します。
 - a. ユーザー ID mqm を作成し、このユーザー ID のパスワードを指定します。
 - b. 以下のユーザー・グループを作成します。
 - mqm
 - mqbrkrs
 - c. 以下のユーザーを mqm ユーザー・グループに追加します。
 - mqm
 - root
 - d. 以下のユーザーを mqbrkrs ユーザー・グループに追加します。
 - root
 - e. ログオフします。
 - f. root としてログオンし、グループ・メンバーシップの変更を有効にします。

ユーザーの作成、ユーザー・グループの作成、およびグループへのユーザーの追加の方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

これらのユーザー ID やグループを正しくセットアップせずに WebSphere Commerce インストール・ウィザードを始動すると、インストール・ウィザードが必要なユーザーやグループの存在を検査する時点から先に進まなくなります。

プリインストール・チェックリスト

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下のチェックリストを完成させ、すべてのプリインストール要件が満たされていることを確かめます。

- 計画中のインストールに関係するすべてのシステムが、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で示されているハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしています。
- WebSphere Commerce で必要なすべてのポートが使用可能になっています。WebSphere Commerce で必要なポートは 6 ページの『WebSphere Commerce により使用されるポート番号』でリストされています。
- 計画中のインストールに関係するすべてのノード上のマシンで、正しいロケール・コードが設定されています。WebSphere Commerce で必要なロケール・コードは 8 ページの『WebSphere Commerce により使用されるロケール』でリストされています。
- WebSphere Commerce インストール・ウィザードの完了に必要なすべての ID、パスワード、パス、および他の情報が収集済みです。WebSphere

Commerce インストール・ウィザードの完了に必要な情報は、35 ページの『第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』にリストされています。

- WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー ID およびグループが作成され、正しく構成されています。これらの ID、グループ、およびその構成については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』で扱われています。
- WebSphere Commerce や WebSphere Commerce Payments を始動して実行するのに必要な非 root のユーザー ID が作成され、そのユーザー ID のパスワードが設定されています。このユーザー ID の詳細については、36 ページの『インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID』に記載されています。
- プリインストールされた Web サーバーが停止されています。WebSphere Commerce のインストール時に Web サーバーがマシン上で稼働していると、インストールは正しく完了しません。
- Java アプリケーション・サーバーと必須でない Java プロセスが停止されています。
- 他の InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了され、停止されています。

重要

このチェックリストを完成させないと、インストールが失敗したり、WebSphere Commerce やそのコンポーネントが予期しない動作を示したりします。WebSphere Commerce とそのコンポーネントをインストールするシステムで、このチェックリストで示されているすべての要件を満たすことを強くお勧めします。

インストール・タイプの選択

このセクションでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードで実行可能なインストール・タイプについて説明します。説明を検討し、インストール・タイプを選択した後、それぞれの説明で参照されている情報に従って、選択したタイプのインストールを完了してください。

WebSphere Commerce インストール・ウィザードでは、以下のタイプのインストールを実行できます。

- 『高速インストール』
- 28 ページの『通常の 1 ノード・インストール』
- 28 ページの『通常の 3 ノード・インストール』
- 31 ページの『カスタム・インストール』

高速インストール

以下のコンポーネントがいずれも存在していない単一ノードに、以下のコンポーネントをインストールします。

- IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16
- IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2
- WebSphere Application Server 基本製品、バージョン 5.0.2
- IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 (WebSphere Commerce Payments を含む)

高速インストールでは、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスも作成されます。

IBM 以外のソフトウェアは、高速インストールでサポートされていません。

高速インストールを完了する方法については、「*WebSphere Commerce* クイック・スタート」で扱われています。

通常の 1 ノード・インストール

すべての WebSphere Commerce ソフトウェアが単一ノードにインストールされます。これには、データベース、Web サーバー、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバーが含まれます。

このインストールは、以下の違いを除き、高速インストールに類似しています。

- プリインストールされたデータベースがサポートされます。ただし、そのデータベースが WebSphere Commerce でサポートされるデータベースであり、必要なバージョン・レベルに達している必要があります。
- プリインストールされた Web サーバーがサポートされます。ただし、その Web サーバーが WebSphere Commerce でサポートされる Web サーバーであり、必要なバージョン・レベルに達している必要があります。
- プリインストールされた WebSphere Application Server がサポートされます。ただし、WebSphere Commerce でサポートされるバージョン・レベルに達している必要があります。
- IBM 以外のソフトウェアは、通常の 1 ノード・インストールではサポートされません。
- WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスが、インストール・プロセスの一部として作成されません。

通常の 1 ノード・インストールの完了については、39 ページの『第 8 章 標準インストールの実行』で説明されています。

通常の 3 ノード・インストール

WebSphere Commerce ソフトウェアが以下のように 3 つのノードにまたがってインストールされます。

- 第 1 のノード: データベース
- 第 2 のノード: Web サーバー
- 第 3 のノード: WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバー

すべてのノードで、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』でリストされているオペレーティング・システム要件を満たすオペレーティング・システムが稼働していなければなりません。

通常の 3 ノード・インストールの完了については、39 ページの『第 8 章 標準インストールの実行』で説明されています。

重要: 通常の 3 ノード・インストールでは、上記の順にコンポーネントをインストールする必要があります。一部のノードのインストールでは、インストールを完了するために前のノードに関する情報が必要になります。

次のページの図は、通常の 3 ノード・インストールでさまざまな WebSphere Commerce コンポーネントが分散される様子を示しています。

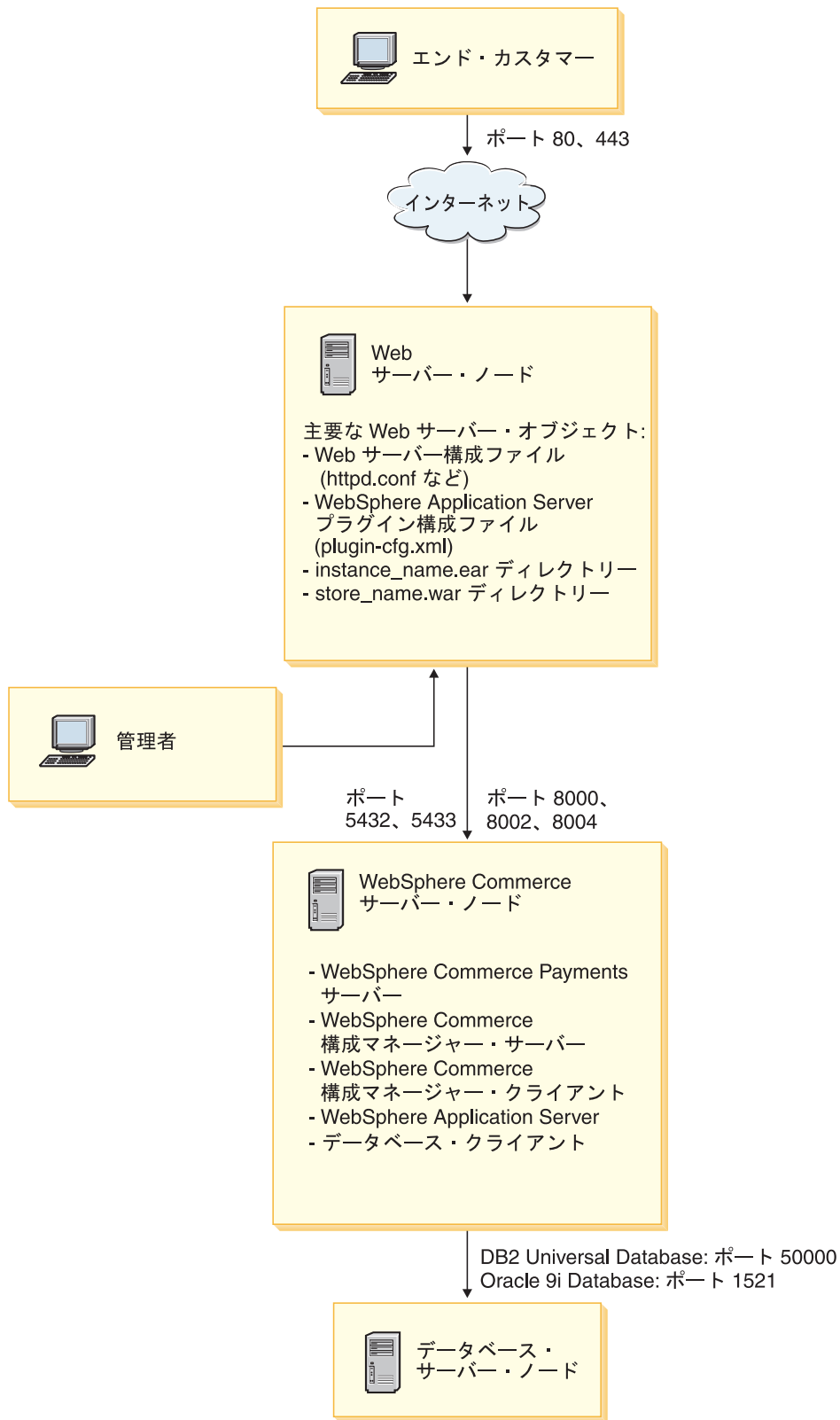


図 1. 通常の 3 ノード・インストール

注: Oracle9i は Linux 上の WebSphere Commerce ではサポートされていません。

カスタム・インストール

カスタム・インストールを使用すると、WebSphere Commerce コンポーネントを複数のノードにまたがってインストールできます。すべてのノードで、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』でリストされているオペレーティング・システム要件を満たすオペレーティング・システムが稼働していなければなりません。

以下に示すのは、カスタム・インストールを実行するいくつかのシナリオの例です。

- 他のインストール・オプションでサポートされない WebSphere Commerce のトポグラフィをインストールしたい。たとえば、2 ノード・インストールで、データベース・サーバーを一方のノードに、他のすべての WebSphere Commerce コンポーネントを他方のノードにインストールします。
- WebSphere Commerce Payments を WebSphere Commerce からリモート実行したい。
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントだけをシステムにインストールしたい。
- リモート Web サーバー用に WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインだけをインストールしたい。
- WebSphere Commerce コンポーネントを複数のマシンに分散させ、以下の利点を実現したい。
 - CPU ロードの分散による、トランザクションの速度の向上
 - スペースが限定されている既存のデータベース、Web サーバー、およびマシンを使用できる
 - 主幹業務の WebSphere Commerce データの冗長度を実現するため、クラスタリング機能を提供する
 - 拡張容易性とロード・バランシング機能の向上

このインストールは、WebSphere Commerce の上級知識を持っているユーザーだけが試行してください。上級知識には以下のことが含まれます。

- 分散環境における IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 の構成と操作 (複製、クラスタリング、および連合を含む) に関する上級知識。
- 分散環境における WebSphere Commerce インスタンスの作成経験。
- リモート・データベースの構成と管理の経験。
- リモート・アプリケーションを処理する Web サーバーの構成経験。

カスタム・インストールの完了については、53 ページの『第 9 章 カスタム・インストールの実行』で説明されています。

カスタム・インストールの使用例として、次のページの図は、カスタムの 5 ノード・インストールでさまざまな WebSphere Commerce コンポーネントが分散される様子を示しています。

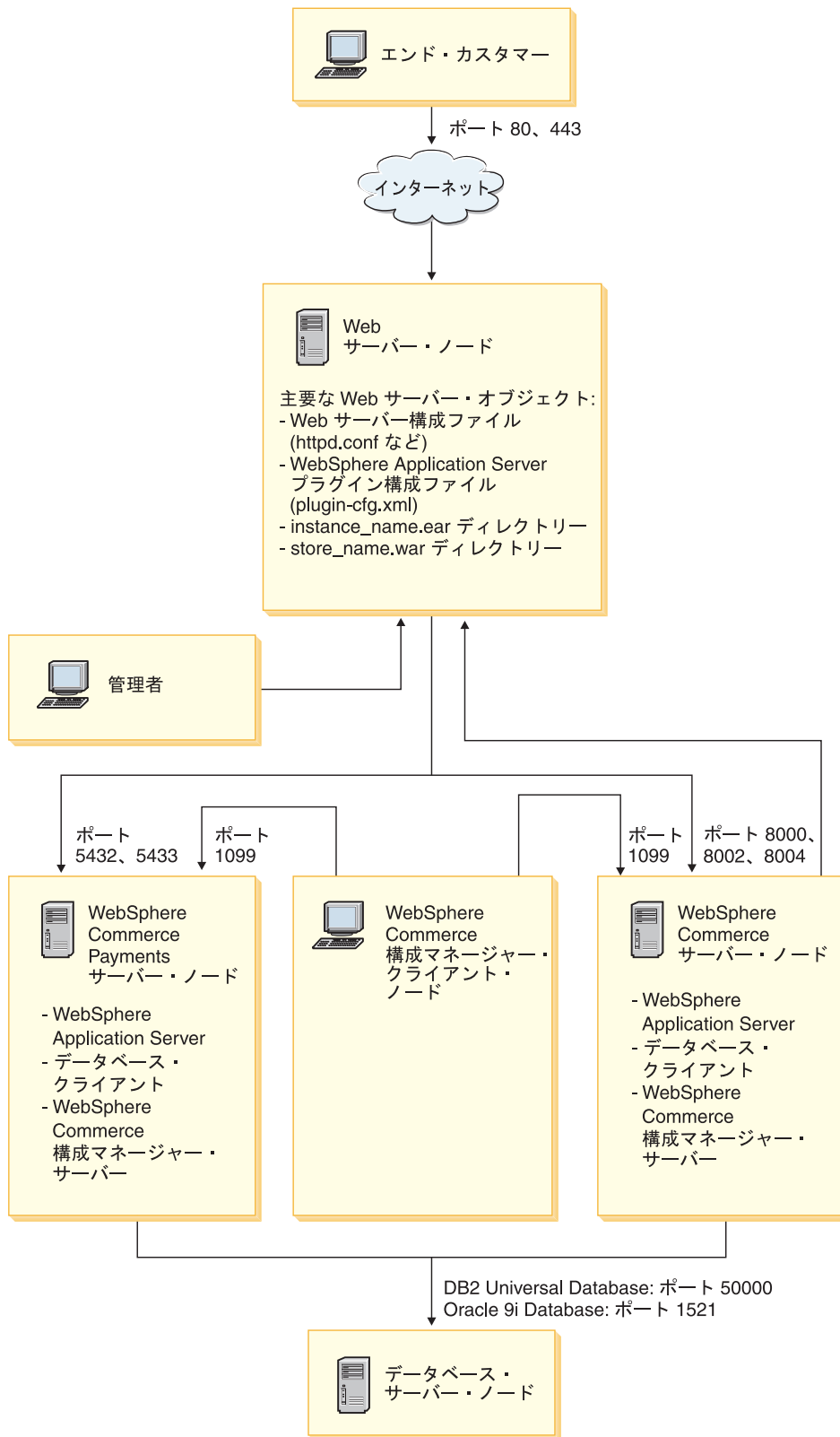


図 2. カスタムの 5 ノード・インストール

注: Oracle9i は Linux 上の WebSphere Commerce ではサポートされていません。

@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送

WebSphere Commerce とそのサポート・ソフトウェアを @server zSeries または S/390 マシン上の Linux 区画にインストールする前に、WebSphere Commerce CD の内容を、CD-ROM ドライブ付きのワークステーションから、WebSphere Commerce とそのサポート・ソフトウェアをインストールする @server zSeries または S/390 マシンに転送する必要があります。

以下の CD を転送する必要があります。

- DB2 Universal Database CD

これらの CD は、DB2 Universal Database をインストールするノードに転送する必要があります。 WebSphere Commerce とともに使用する DB2 Universal Database をすでにインストール済みである場合、これらの CD をインストールする必要はありません。

- WebSphere Application Server CD

この CD は、以下のノードに転送する必要があります。

- Web サーバー・ノード
- WebSphere Commerce ノード
- WebSphere Commerce Payments ノード

- WebSphere Commerce CD

これらの CD は、以下のノードに転送する必要があります。

- データベース・ノード (DB2 Universal Database をインストールする場合)
- Web サーバー・ノード
- WebSphere Commerce ノード
- WebSphere Commerce Payments ノード

CD の内容を @server zSeries または S/390 マシンに転送するには、以下のようになります。

1. ワークステーションで以下の作業を行います。
 - a. CD をワークステーションの CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. *gzip* などのファイル圧縮ユーティリティか *tar* などのアーカイブ・ユーティリティを使用して、CD-ROM の内容全体を単一ファイルにパッケージします。
 - c. FTP か使用可能な他の転送方法を使用して、そのファイルをワークステーションから @server zSeries または S/390 マシンに転送します。
 - d. ワークステーションでハード・ディスク・スペースの量が限定されている場合は、このファイルを削除します。
2. @server zSeries または S/390 マシンで以下の作業を行います。
 - a. `root` としてログインしていることを確かめます。
 - b. CD の内容を入れる一時ディレクトリを作成し、分かりやすい名前を付けます。 WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完了するため、CD の内容が入っている各ディレクトリの名前と位置を知っている必要があります。必ず、各 CD について別個のディレクトリを作成します。

- c. ファイルを該当する一時ディレクトリーに圧縮解除またはアーカイブ解除します。
必ず、各ファイルを固有の一時ディレクトリーに圧縮解除またはアーカイブ解除してください。異なる CD に同じ名前のファイルが含まれる可能性があります。複数の CD の内容を 1 つのディレクトリーに保管すると、同じ名前を持つファイルが、各ファイルをディレクトリーに圧縮解除またはアーカイブ解除するたびに上書きされることになります。
- d. (オプション) ハード・ディスク・スペースを節約するため、圧縮ファイルまたはアーカイブ・ファイルを削除します。

重要

WebSphere Commerce とそのサポート・ソフトウェアを複数のノードにまたがってインストールする場合は、必ず、WebSphere Commerce のインストールを開始する前に、必要な CD を各ノードに転送してください。

第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス

WebSphere Commerce インストール・ウィザードでは、インストールを完了するために、複数の異なるユーザー ID と他の情報が求められます。WebSphere Commerce のインストールを開始する前に、下の表に記入して、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完了するときその情報がすぐ入手できるようにしておいてください。

ユーザー ID

36 ページの『インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID』の説明を検討し、この表に記入します。

| ユーザー ID の説明 | ユーザー ID | パスワード | グループ | ホーム・ディレクトリーの絶対パス |
|-------------------------------------|---------|-------|------|------------------|
| DB2 ユーザー ID | | | | |
| 非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID | | | | |

ユーザー ID の作成、グループの作成、およびパスワードの設定については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

WebSphere Commerce の非 root ユーザーを作成する方法については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

デフォルトでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードは **wasuser** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID として指定し、**wasgroup** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として指定します。このユーザーとグループを作成するか、インストール・ウィザードのデフォルト値を別のユーザー ID やグループで置き換えることができます。

必要な他のユーザーとグループ

WebSphere Commerce のインストールでは、WebSphere Commerce をインストールする前に特定のユーザー ID とグループが存在している必要があります。存在していないユーザーとグループを作成し、WebSphere Commerce をインストールする前に必ずユーザーをグループに追加してください。

| ユーザー ID またはグループの説明 | ユーザー ID | ユーザー ID が存在しなければならないグループ |
|------------------------------------------------|---------|--------------------------|
| root ユーザー | root | mqbrkrs, mqm |
| WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー | mqm | mqm |

これらのユーザー ID とグループの作成に関する詳細は、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

重要: これらのユーザー ID とグループの存在は、オプションではありません。これらの特定のユーザー ID やグループが存在しないと、インストール・ウィザードは停止します。

これらのユーザー ID やグループが存在しないためにインストール・ウィザードが停止した場合は、ユーザー ID とグループを作成してから、「戻る」をクリックし、「次へ」をクリックします。このとき、インストール・ウィザードは継続するはずですが、

インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID

WebSphere Commerce のインストールを完了するには、以下の ID が定義されている必要があります。

| ユーザー ID | 説明 |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DB2 データベース・ユーザー ID | <p>このオペレーティング・システム ID は、WebSphere Commerce で DB2 Universal Database をインストールする場合に必要です。この ID は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを介して DB2 Universal Database をインストールする前に存在してはいけません。</p> <p>DB2 Universal Database のインストールの一部として、すべての DB2 プロセスの実行時に使用するこのユーザー ID が作成されます。</p> <p>DB2 ユーザーを作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">• ユーザー ID• パスワード• このユーザー ID が属するグループ• このユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>このユーザー ID 用の .profile スクリプトにエラーが含まれていないことを確かめてください。</p> <p>注: このユーザー ID は、37 ページの『DB2 Universal Database ユーザー ID の要件』で示されている DB2 Universal Database ユーザー ID の要件を満たしている必要があります。</p> |

| ユーザー ID | 説明 |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| WebSphere Commerce の非 root の ユーザー ID | <p>この ID は、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを始動するために必要です。この ID は、WebSphere Commerce をインストールする前に存在している必要があります。必ず、このユーザー ID のパスワードを設定してください。</p> <p>これにより、root 特権を持つユーザーとしてアプリケーション・サーバーを実行したときに起こりうる機密漏れを防止できます。</p> <p>非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID を作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー ID • このユーザー ID が属するグループ • このユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>また、この情報は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完了するためにも必要になります。</p> |

WebSphere Commerce の非 root の ID を作成する方法については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

DB2 Universal Database ユーザー ID の要件

DB2 では、データベース管理者とデータベース・ユーザーのユーザー ID およびパスワードが、以下の規則に従っている必要があります。

- 長さが 8 文字を超えることはできません。
- 文字 a ~ z および 0 ~ 9 だけを含めることができます (大文字は使用できません)。
- 下線 (_) で始めることはできません。
- 大文字、小文字、または大文字小文字混合のいずれであれ、USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、または LOCAL にすることはできません。
- ユーザー ID は、大文字、小文字、または大文字小文字混合のいずれであれ、IBM、SQL、または SYS で始めることができません。

第 8 章 標準インストールの実行

この章では、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを利用するいくつかのタイプの標準インストールの実行方法について説明します。

通常の 1 ノード・インストールの実行

通常の 1 ノード・インストールを実行するには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server が必要とするユーザー ID が作成されていることを確認します。これらのユーザー ID の作成方法については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. プリインストール・チェックリストが完了していることを確認します。このチェックリストを完成させていないと、インストールに失敗することがあります。詳しくは、26 ページの『プリインストール・チェックリスト』を参照してください。
3. root としてシステムにログオンしていることを確認します。
4. ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下を実行します。

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | WebSphere Commerce CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。 |
| @server iSeries システム | |
| @server pSeries システム | |
| @server zSeries システム | ディレクトリを WebSphere Commerce CD 1 の内容が含まれるディレクトリに切り替えます。この CD および他の CD の内容は、事前に @server zSeries または S/390 システムに転送されている必要があります。 |
| S/390 システム | CD の内容を @server zSeries または S/390 システムに転送することについて詳しくは、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。 |

5. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから root として次のコマンドを発行します。

xhost +host_name

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- ハードウェア・プラットフォームに応じて、*root* として、以下のコマンドのいずれかを発行してください。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <i>mount_point/setup_linux</i> または <i>mount_point/setup_linux -console</i> |
| @server iSeries システム | <i>mount_point/setup_ppclinux</i> または <i>mount_point/setup_ppclinux -console</i> |
| @server pSeries システム | <i>mount_point/setup_ppclinux</i> または <i>mount_point/setup_ppclinux -console</i> |
| @server zSeries システム | <i>./setup_zlinux</i> または <i>./setup_zlinux -console</i> |
| S/390 システム | |

mount_point は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、*/mnt/cdrom0* です。

-console パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードが続行される方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および続行に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ提供されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



CD-ROM マウント・ポイントへのディレクトリーは切り替えないでください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブ内の CD を交換することができなくなります。

- インストール時に使用する言語を選択し、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択された言語は、WebSphere Commerce インスタンス用のデフォルトの言語になります。ここで選択された言語とは異なるデフォルト

の言語で WebSphere Commerce インスタンスを作成しようとする、WebSphere Commerce インスタンスには無効なデータが取り込まれません。

インストール時に使用する言語を選択した後、システムがプリインストール要件を満たしているかを確認するためのチェックが実行されます。

システムがプリインストール要件を満たしている場合、「ウェルカム」パネルが表示されます。

システムがプリインストール要件を満たしていない場合、満たされていない要件の詳細を示すダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップの終了」をクリックしてインストール・プログラムを終了します。リストに挙げられているプリインストール要件を満たすために適切なステップを実行し、インストールを再開します。

8. システムがプリインストール要件を満たしている場合には、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。
9. 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページにあるライセンス契約の条件を確認します。

ライセンス契約の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、ライセンス契約の条件を受諾します。

ライセンス契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。ライセンス契約の条件を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

10. ライセンス契約の条件を受諾すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「標準インストール (Typical Installation)」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. トポロジーの選択を求められたら、「**1 ノード・インストール (One-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. ご使用のデータベースと Web サーバーをドロップダウン・リストから選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. インストールしている製品のデフォルトの宛先ディレクトリを受け入れるか、または別のディレクトリを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. インストール・ウィザードのプロンプトに従って、データベース・ユーザーの情報を入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。データベース・ユーザー ID とパスワードが、35 ページの『第 7 章 インストールで必要な ID のクイック・リファレンス』で概略されている要件を満たしていることを確認します。

注: データベース・ユーザー情報が、そのデータベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認します。

15. インストールする資料の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

16. インストール・ウィザードのプロンプトに従って、非 root ユーザー ID の情報を入力します。このユーザー ID は、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』の手順を完了した時に作成されたものです。
17. 次のいずれかを実行します。
 - IBM HTTP Server を Web サーバーとして選択し、その Web サーバーがすでにインストール済みである場合、Web サーバー構成ファイルが置かれているディレクトリを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 - Web サーバーがインストールされていない場合、「次へ」をクリックして先へ進みます。IBM HTTP Server がインストールされます。
この場合、Web サーバー構成ファイルへのパスを表示しているフィールドは編集できません。フィールドの内容は、表示の目的だけのものです。
「概要」パネルが表示されます。
18. 「概要」パネルの内容を確認した後、「次へ」をクリックして先へ進みます。
19. 指示に従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。
コンポーネントのインストール中は、パネルにはコンポーネントのインストールが進行中であることが表示されます。
CD-ROM ドライブ内の CD を変更するために CD-ROM ドライブをアンマウントすることが必要な場合があります。CD を変更した後に、CD-ROM ドライブを再マウントする必要があります。
20. インストールは、概要パネルが表示されると完了したことになります。「次へ」をクリックして先へ進みます。
21. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

通常の 1 ノード・インストールを完了した後、52 ページの『次のステップ』の手順に従います。

通常の 3 ノード・インストールの実行

通常の 3 ノード・インストールを実行するには、次のようにします。

1. データベースをインストールします。詳しくは、『通常の 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール』を参照してください。
2. Web サーバーをインストールします。詳しくは、46 ページの『通常の 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール』を参照してください。
3. 残りの WebSphere Commerce コンポーネントをインストールします。詳しくは、49 ページの『一般的な 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール』を参照してください。

通常の 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール

DB2 Universal Database をデータベースとして使用している場合には、データベース・サーバー・ノードで以下を行います。

1. root としてシステムにログオンしていることを確認します。

2. ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下を実行します。

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | WebSphere Commerce CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリーは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリーを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。 |
| @server iSeries システム | |
| @server pSeries システム | |
| @server zSeries システム | ディレクトリーを WebSphere Commerce CD 1 の内容が含まれるディレクトリーに切り替えます。この CD および他の CD の内容は、事前に @server zSeries または S/390 システムに転送されている必要があります。 |
| S/390 システム | CD の内容を @server zSeries または S/390 システムに転送することについて詳しくは、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。 |

3. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから *root* として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

4. ハードウェア・プラットフォームに応じて、*root* として、以下のコマンドのいずれかを発行してください。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <i>mount_point/setup_linux</i> または <i>mount_point/setup_linux -console</i> |
| @server iSeries システム | <i>mount_point/setup_ppclinux</i> または <i>mount_point/setup_ppclinux -console</i> |

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| @server pSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server zSeries システム | <code>./setup_zlinux</code> または <code>./setup_zlinux -console</code> |
| S/390 システム | |

`mount_point` は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` です。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードが続行される方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および続行に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ提供されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



CD-ROM マウント・ポイントへのディレクトリーは切り替えないでください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブ内の CD を交換することができなくなります。

5. インストール時に使用する言語を選択し、「OK」をクリックします。
インストール時に使用する言語を選択した後、システムがプリインストール要件を満たしているかを確認するためのチェックが実行されます。
システムがプリインストール要件を満たしている場合、「ウェルカム」パネルが表示されます。
システムがプリインストール要件を満たしていない場合、満たされていない要件の詳細を示すダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップの終了」をクリックしてインストール・プログラムを終了します。リストに挙げられているプリインストール要件を満たすために適切なステップを実行し、インストールを再開します。
6. システムがプリインストール要件を満たしている場合には、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。
7. 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページにあるライセンス契約の条件を確認します。
ライセンス契約の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、ライセンス契約の条件を受諾します。

ライセンス契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。ライセンス契約の条件を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

8. ライセンス契約の条件を受諾すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「**標準インストール (Typical Installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
9. トポロジーの選択を求められたら、「**3 ノード・インストール (Three-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
10. インストールするノードを尋ねられた時には、「**データベース・サーバー・ノード (Database server node)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. ご使用のデータベースをドロップダウン・リストから選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. インストールしている製品のデフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. 各フィールドに適切な情報を入力して、パネルを完成させます。入力したすべてのユーザー ID およびパスワードが、35 ページの『第 7 章 インストールで必要な ID のクイック・リファレンス』で概略されている要件を満たしていることを確認します。

注: データベース・ユーザー情報が、そのデータベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認します。

「次へ」をクリックして先へ進みます。

14. 確認ページで、インストールするコンポーネントとそのインストール場所を確認します。変更を加えるには、「**戻る**」ボタンを使用して、変更を加えたいパネルに戻ります。

確認ページでリストされているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。

15. 指示に従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。
コンポーネントのインストール中は、パネルにはコンポーネントのインストールが進行中であることが表示されます。この時点で表示される追加のプロンプトに従います。
16. 概要パネルが表示されると DB2 Universal Database のインストールは完了します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
17. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「**終了**」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

46 ページの『通常の 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール』にある手順に従って、通常の 3 ノード・インストールを続行します。

通常の 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール

Web サーバー・ノードでインストールを完了するには、Web サーバー・ノードで次のようにします。

1. root としてシステムにログオンしていることを確認します。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから root として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

3. ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下を実行します。

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | WebSphere Commerce CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリーは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリーを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。 |
| @server iSeries システム | |
| @server pSeries システム | |
| @server zSeries システム | ディレクトリーを WebSphere Commerce CD 1 の内容が含まれるディレクトリーに切り替えます。この CD および他の CD の内容は、事前に @server zSeries または S/390 システムに転送されている必要があります。 |
| S/390 システム | CD の内容を @server zSeries または S/390 システムに転送することについて詳しくは、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。 |

4. ハードウェア・プラットフォームに応じて、root として、以下のコマンドのいずれかを発行してください。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <i>mount_point/setup_linux</i> または <i>mount_point/setup_linux -console</i> |

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| @server iSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server pSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server zSeries システム | <code>./setup_zlinux</code> |
| S/390 システム | または <code>./setup_zlinux -console</code> |

`mount_point` は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` です。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードが続行される方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および続行に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ提供されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



CD-ROM マウント・ポイントへのディレクトリーは切り替えないでください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブ内の CD を交換することができなくなります。

- インストール時に使用する言語を選択し、「OK」をクリックします。
インストール時に使用する言語を選択した後、システムがプリインストール要件を満たしているかを確認するためのチェックが実行されます。
システムがプリインストール要件を満たしている場合、「ウェルカム」パネルが表示されます。
システムがプリインストール要件を満たしていない場合、満たされていない要件の詳細を示すダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップの終了」をクリックしてインストール・プログラムを終了します。リストに挙げられているプリインストール要件を満たすために適切なステップを実行し、インストールを再開します。
- システムがプリインストール要件を満たしている場合には、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。

7. 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページにあるライセンス契約の条件を確認します。

ライセンス契約の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、ライセンス契約の条件を受諾します。

ライセンス契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。ライセンス契約の条件を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。
8. ライセンス契約の条件を受諾すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「**標準インストール (Typical Installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
9. トポロジーの選択を求められたら、「**3 ノード・インストール (Three-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
10. インストールするノードを尋ねられた場合は、「**Web サーバー・ノード**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. ご使用の Web サーバーをドロップダウン・リストから選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. インストールしている製品のデフォルトの宛先ディレクトリを受け入れるか、または別のディレクトリを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. インストールする資料の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. インストール・ウィザードのプロンプトに従って、非 root ユーザー ID の情報を入力します。このユーザー ID は、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』の手順を完了した時に作成されたものです。
15. 次のいずれかを実行します。
 - IBM HTTP Server を Web サーバーとして選択し、その Web サーバーがすでにインストール済みである場合、Web サーバー構成ファイルが置かれているディレクトリを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 - Web サーバーがインストールされていない場合、「次へ」をクリックして先へ進みます。IBM HTTP Server がインストールされます。

この場合、Web サーバー構成ファイルへのパスを表示しているフィールドは編集できません。フィールドの内容は、表示の目的だけのものです。

「概要」パネルが表示されます。
16. 「概要」パネルで、インストールするコンポーネントとそのインストール場所を確認します。変更を加えるには、「戻る」ボタンを使用して、変更を加えたいパネルに戻ります。

確認ページでリストされているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。

17. 指示に従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。
コンポーネントのインストール中は、パネルにはコンポーネントのインストールが進行中であることが表示されます。この時点で表示される追加のプロンプトに従います。
 18. Web サーバーのインストールは、概要パネルが表示されると完了したことになります。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 19. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。
- 『一般的な 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール』にある手順に従って、通常の 3 ノード・インストールを続行します。

一般的な 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール

残りの WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、WebSphere Commerce ノード上で以下のようにします。

1. WebSphere Application Server が必要とするユーザー ID が作成されていることを確認します。これらのユーザー ID の作成方法については、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. root としてシステムにログオンしていることを確認します。
3. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから root として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

4. ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下を実行します。

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | WebSphere Commerce CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリーは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリーを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。 |
| @server iSeries システム | |
| @server pSeries システム | |

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| @server zSeries システム | ディレクトリーを WebSphere Commerce CD 1 の内容が含まれるディレクトリーに切り替えます。この CD および他の CD の内容は、事前に @server zSeries または S/390 システムに転送されている必要があります。 |
| S/390 システム | CD の内容を @server zSeries または S/390 システムに転送することについて詳しくは、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。 |

5. ハードウェア・プラットフォームに応じて、`root` として、以下のコマンドのいずれかを発行してください。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <code>mount_point/setup_linux</code> または <code>mount_point/setup_linux -console</code> |
| @server iSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server pSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server zSeries システム | <code>./setup_zlinux</code> |
| S/390 システム | または <code>./setup_zlinux -console</code> |

`mount_point` は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` です。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードが続行される方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および続行に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ提供されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



CD-ROM マウント・ポイントへのディレクトリは切り替えないください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブ内の CD を交換することができなくなります。

6. インストール時に使用する言語を選択し、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択された言語は、WebSphere Commerce インスタンス用のデフォルトの言語になります。ここで選択された言語とは異なるデフォルトの言語で WebSphere Commerce インスタンスを作成しようとする、WebSphere Commerce インスタンスには無効なデータが取り込まれます。

インストール時に使用する言語を選択した後、システムがプリインストール要件を満たしているかを確認するためのチェックが実行されます。

システムがプリインストール要件を満たしている場合、「ウェルカム」パネルが表示されます。

システムがプリインストール要件を満たしていない場合、満たされていない要件の詳細を示すダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップの終了」をクリックしてインストール・プログラムを終了します。リストに挙げられているプリインストール要件を満たすために適切なステップを実行し、インストールを再開します。

7. システムがプリインストール要件を満たしている場合には、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。

8. 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページにあるライセンス契約の条件を確認します。

ライセンス契約の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、ライセンス契約の条件を受諾します。

ライセンス契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。ライセンス契約の条件を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

9. ライセンス契約の条件を受諾すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「**標準インストール (Typical Installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

10. トポロジーの選択を求められたら、「**3 ノード・インストール (Three-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

11. インストールするノードの選択を求められたら、「**WebSphere Commerce サーバー・ノード (WebSphere Commerce Server node)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

12. データベース・ノードにインストールされているデータベース管理システムを、ドロップダウン・リストから選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

13. インストールしている製品のデフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. 各フィールドに適切な情報を入力して、パネルを完成させます。「次へ」をクリックして先へ進みます。入力したすべてのユーザー ID およびパスワードが、35 ページの『第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』で概略されている要件を満たしていることを確認します。

注: データベース・ユーザー情報が、そのデータベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認します。

15. インストールする資料の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
16. インストール・ウィザードのプロンプトに従って、非 root ユーザー ID の情報を入力します。このユーザー ID は、25 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』の手順を完了した時に作成されたものです。
17. 確認ページで、インストールするコンポーネントとそのインストール場所を確認します。変更を加えるには、「戻る」ボタンを使用して、変更を加えたいパネルに戻ります。

確認ページでリストされているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。

18. 指示に従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。
コンポーネントのインストール中は、パネルにはコンポーネントのインストールが進行中であることが表示されます。この時点で表示される追加のプロンプトに従います。
19. インストールは、概要パネルが表示されると完了したことになります。「次へ」をクリックして先へ進みます。
20. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

次のステップ

標準インストールを完了した後、以下を行います。

1. まだ完了していない場合、README ファイルを確認して、README ファイルで説明されている追加フィックスをインストールします。README ファイルについての詳細は、14 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 59 ページの『第 10 章 インストールの検証』にある手順に従って、インストールを検証してください。

第 9 章 カスタム・インストールの実行

カスタム・インストールは、以下のような WebSphere Commerce に関する十分な知識を持ったユーザーだけが実行してください。

- 分散環境における IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 構成および操作についての十分な知識。
- 分散環境における WebSphere Commerce インスタンスの作成経験。
- リモート・データベースの構成および管理経験。
- リモート・アプリケーションを処理する Web サーバーの構成経験。

カスタム・インストールを実行する場合、以下の各コンポーネントを別々のノードでインストールできます。

WebSphere Commerce コンポーネント

WebSphere Commerce サーバー

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments を除くすべての WebSphere Commerce の機能を提供します。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce サンプル・ストア
- WebSphere Application Server 基本製品
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

重要: Web サーバーおよびデータベースに関する情報は、このコンポーネントのインストール・ウィザード内で実行する必要があるため、このコンポーネントをインストールする前に、Web サーバーおよびデータベースをインストールしておく必要があります。

ローカル DB2 Universal Database と WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントとの使用を考えており、DB2 Universal Database がまだインストールされていない場合、インストール・ウィザードで WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントを選択する際に、**DB2 Universal Database** コンポーネントも必ず選択します。

リモート DB2 Universal Database で WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

WebSphere Commerce ファイルの例

このコンポーネントは、商品アドバイザー、Web サービスおよび Payments 用を含む、さまざまなサンプル・ファイルを提供します。

このコンポーネントには WebSphere Commerce サンプル・ストアは含まれません。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

このコンポーネントは、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ (WebSphere Commerce Payments を含む) をインストールします。このコンポーネントをインストールすると、インストール・ウィザードで選択した場所にオンライン・ヘルプ・ファイルがコピーされますが、HTTP 経由でファイルを表示するための Web サーバーはインストールされません。このファイルは、ノードのファイル・システムからファイルを開くことによってのみ表示できます。

WebSphere Commerce Payments

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のすべての機能をインストールします。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce Payments
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Application Server 基本製品
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

重要: Web サーバーおよびデータベースに関する情報は、このコンポーネントのインストール・ウィザード内で実行する必要があるため、このコンポーネントをインストールする前に、Web サーバーおよびデータベースをインストールしておく必要があります。

リモートまたはローカル DB2 Universal Database で WebSphere Commerce Payments コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

リモート WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント

このコンポーネントによって、インスタンスを作成して、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments ノードの両方からリモートで WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を構成することができます。

サポートするソフトウェア

DB2 Universal Database

このコンポーネントを選択すると、IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.0.16 Enterprise Server Edition およびノード上のクライ

アントがインストールおよび構成されます。このコンポーネントを選択すると、DB2 管理クライアントだけがノード上にはインストールされません。

IBM HTTP Server

このコンポーネントを選択すると、IBM HTTP Server がインストールおよび構成されます。これは IBM HTTP Server 用の WebSphere Application Server プラグインもインストールします。

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン

このコンポーネントを選択すると、インストール・ウィザードで選択した Web サーバー用の WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインがインストールされます。

カスタム・インストールの実行

カスタム構成で WebSphere Commerce コンポーネントのすべてをインストールするには、ご使用の構成の各ノードでこのセクションのステップを繰り返してください。

ノード上でカスタム・インストールを実行するには、以下を行います。

1. root としてシステムにログオンしていることを確認してください。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行したいマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから root として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行したいマシンの完全修飾ホスト名です。

3. ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下を実行します。

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | WebSphere Commerce CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリーは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリーを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。 |
| @server iSeries システム | |
| @server pSeries システム | |

| ハードウェア・プラットフォーム | 手順 |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| @server zSeries システム | ディレクトリーを WebSphere Commerce CD 1 の内容が含まれるディレクトリーに切り替えます。この CD および他の CD の内容は、事前に @server zSeries または S/390 システムに転送されている必要があります。 |
| S/390 システム | CD の内容を @server zSeries または S/390 システムに転送することについて詳しくは、33 ページの『@server zSeries または S/390 へのインストール・ファイルの転送』を参照してください。 |

4. ハードウェア・プラットフォームに応じて、`root` として、以下のコマンドのいずれかを発行してください。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <code>mount_point/setup_linux</code> または <code>mount_point/setup_linux -console</code> |
| @server iSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server pSeries システム | <code>mount_point/setup_ppclinux</code> または <code>mount_point/setup_ppclinux -console</code> |
| @server zSeries システム | <code>./setup_zlinux</code> |
| S/390 システム | または <code>./setup_zlinux -console</code> |

`mount_point` は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` です。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードが続行される方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および継続に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ提供されます。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



CD-ROM マウント・ポイントへのディレクトリーは切り替えないください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブ内の CD を交換することができなくなります。

5. 言語を選択してから、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択された言語は、WebSphere Commerce インスタンス用のデフォルトの言語になります。ここで選択された言語とは異なるデフォルトの言語で WebSphere Commerce インスタンスを作成しようとする、WebSphere Commerce インスタンスには無効なデータが取り込まれます。

6. 「ウェルカム」パネルで、「次へ」をクリックします。

7. 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」ページにあるライセンス契約の条件を確認します。

ライセンス契約の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、ライセンス契約の条件を受諾します。

ライセンス契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。ライセンス契約の条件を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

8. ライセンス契約の条件を受諾すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「カスタム・インストール」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

9. ノードにインストールしたいコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

各コンポーネントの説明はこの章の最初に記載されています。

10. 選択したコンポーネントに応じて、インストール・ウィザードの残りのパネルによって、さまざまな情報の入力が必要とされます。各パネルでフィールド内の情報を完了して、「次へ」をクリックし、次のパネルへ進みます。

インストール・ウィザードを完了するのに必要な値に関する説明は、35 ページの『第 7 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』に記載されています。

情報を要求するパネルを完了した後に、確認ページが表示されます。

11. 確認ページで、インストールするコンポーネントとそのインストール場所を確認します。変更を加えるには、「戻る」ボタンを使用して、変更を加えたいパネルに戻ります。

確認ページでリストされているコンポーネントをインストールするには、「次へ」をクリックします。

12. 指示に従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。

コンポーネントのインストール中は、パネルにはコンポーネントのインストールが進行中であることが表示されます。この時点で表示される追加のプロンプトに従います。

13. 選択したコンポーネントのインストールは、概要パネルが表示されると完了したことになります。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

次のステップ

カスタム・インストールを完了した後、以下を行います。

1. まだ完了していない場合、README ファイルを確認して、README ファイルで説明されている追加フィックスをインストールします。README ファイルの詳細については、14 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 59 ページの『第 10 章 インストールの検証』にある手順に従って、インストールを検証してください。

第 10 章 インストールの検証

WebSphere Commerce およびそのコンポーネントのインストール時には、ログ・ファイルが生成されます。次のログ・ファイルを調べ、正常にインストールされたことを確認します。

- 『DB2 Universal Database インストール・ログ』
- 60 ページの 『WebSphere Application Server インストール・ログ』
- 60 ページの 『WebSphere Commerce インストール・ログ』

IBM 以外のソフトウェアのインストールを確認するには、その IBM 以外のソフトウェア・パッケージで提供されている資料を参照してください。

DB2 Universal Database インストール・ログ

このログには、DB2 Universal Database のインストールの際に生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルトの場所は、`WC_installdir/logs/db2setup.log` です。

ログ・ファイルの末尾付近にリストされているコンポーネントのすべての状況が Success の場合には、DB2 Universal Database は正常にインストールされています。例として、DB2 Universal Database が正常にインストールされた場合のログ・ファイルの末尾のセクションを次に示します。

```
.  
. .  
Installing DB2 file sets:.....Success  
Registering DB2 licenses:.....Success  
Setting default global profile registry variables:.....Success  
Creating the DB2 Administration Server:.....Success  
The Fast Connection Manager (FCM) base port was not specified for the instance "db2inst1".  
Default parameters will be used.  
  
Initializing instance list:.....Success  
Customizing DB2 instance configuration:.....Success  
Command to be run:  
"/opt/IBM/db2/V8.1/instance/db2icrt -a server -s ese -u db2fwc1 -p db2c_db2inst1 db2inst1".  
The instance "db2inst1" has been created successfully.  
  
The value "SVCENAME=db2c_db2inst1" was set in the DBM CFG file for the "db2inst1" instance.  
  
The value "DB2AUTOSTART=YES" was set in the Profile Registry for the "db2inst1" instance.  
  
Creating DB2 instances:.....Success  
Registering DB2 licenses:.....Success  
Configuring the DB2 Administration Server:.....Success  
Updating global profile registry:.....Success  
  
DB2 Setup log file finished at: date time
```

ご使用のログ・ファイルの内容はこれとは異なる場合もあります。

状況が Failure であるコンポーネントがログ・ファイルにある場合には、インストール・ログ・ファイルを注意深く調べ、インストール中にエラーが生じた箇所を確認します。生じたエラーを正すには、DB2 Universal Database 資料を参照してください。

本書の説明を続行する前に、DB2 Universal Database インストール・エラーを修正してください。

WebSphere Application Server インストール・ログ

WebSphere Application Server インストール・ログ・ファイルとは、次のファイルです。

`WAS_installdir/logs/log.txt`

`WAS_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされています。

ログ・ファイルに次のメッセージが表示されていれば、WebSphere Application Server インストールは完了です。

INSTFIN: The WebSphere 5.0 install is complete.

WebSphere Commerce インストール・ログ

このログには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードによって生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

`WC_installdir/logs/install_timestamp.log`

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされています。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して、WebSphere Commerce のインストールと構成を続行します。インスタンスの作成については、61 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の手順に従ってください。

第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

必要なすべてのソフトウェアをインストールすると、WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することができます。これらのインスタンスは構成マネージャーを使用して作成できます。

このセクションには、以下の章があります。

- 63 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』
- 67 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 71 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に

構成マネージャーを開始する前に、あるいは構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に、次の事柄を行ってください。

1. README ファイルで説明されているすべての修正をインストールしてください。README ファイルに関する詳細は、14 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 構成マネージャーの開始に関する前提条件を満たしているか確認してください。前提条件は、『構成マネージャーの前提条件』にリストされています。
3. 『構成マネージャーの開始』にある説明に従って、構成マネージャーを開始します。

重要

構成マネージャー GUI を使用して (Web サーバー GUI または WebSphere Application Server 管理コンソールは使用しない)、次の Web サーバー・プロパティ、および Commerce 関連プロパティのみを変更してください。

- SSL (使用可能または使用不可)
- Web サーバー・インスタンス名またはポート番号
- SSL ポート番号
- システム IP アドレス (Payments サーバー・ホスト)

これにより、単に Web サーバー構成ファイルだけでなく、すべての構成ファイルが、正しい情報で適切に更新されます。

構成マネージャーの前提条件

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始する前に、次のチェックリストを完了し、前提条件すべてを満たしていることを確認してください。

- 構成マネージャー・サーバーおよび構成マネージャー・クライアントを始動するシステムが、8 ページの『WebSphere Commerce により使用されるロケール』で説明されている、サポートされるロケールを使用している。
- Korn シェルを使用している。
- データベース・サーバーが稼働している。
- Web サーバーが稼働している (WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合)。
- DB2 分離ユーザー・グループが DB2 ユーザー ID に割り当てられている。

構成マネージャーの開始

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 非 root ユーザー ID としてログインします。この ID は、WebSphere Commerce のインストールの前に作成されました。
2. 作成または変更するインスタンスに応じて、WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノード上で次のように実行するとサーバーが始動します。
 - a. ターミナル・ウィンドウをオープンします。
 - b. 次のコマンドを発行します。

```
cd WC_installdir/bin
./config_server.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、*v* ページの『パス変数』にリストされています。

注:

- 1) `config_server` コマンドを入力したターミナル・ウィンドウはクローズしないでください。クローズすると、構成マネージャーが停止します。
- 2) 構成マネージャー・サーバーはバックグラウンド・プロセスで実行しないでください。そのようにすると、セキュリティの潜在的なリスクが発生します。
- 3) 現時点で構成マネージャー・サーバーは、ポート 1099 で接続を `listen` しています。構成マネージャー・サーバーを別のポートで `listen` させるには、`./config_server.sh` コマンドではなく次のコマンドを発行してください。

```
./config_server.sh -port port_number
```

ここで、*port_number* は構成マネージャー・サーバーが接続を `listen` するポートです。

3. 次のいずれかを実行して、クライアントを開始します。
 - WebSphere Commerce 構成マネージャーをローカル・マシンで実行するには、次のようにします。
 - a. 別のターミナル・ウィンドウをオープンします。
 - b. WebSphere Commerce のインストールの前に非 root ユーザー ID が作成されたので、次のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
cd WC_installdir/bin
./config_client.sh [-port cm_port]
```

ここで、変数は以下のように定義されます。

cm_port

構成マネージャー・サーバーの始動時に指定したポート。

`-port` パラメーターはオプションです。 `-port` パラメーターを指定しない場合、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して X サーバーにアクセスする許可を与えることが必要かもしれません。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから `root` として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、`host_name` はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- c. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin** で、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインする場合には、パスワードを変更するかどうか尋ねられます。
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをリモート・マシンで実行するには、次のようにします。
 - a. WebSphere Commerce のインストール前に作成された非 `root` ユーザー ID でリモート・マシンにログオンします。
 - b. ターミナル・ウィンドウをオープンします。
 - c. 次のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0cd WC_installdir/bin
```

- d. 構成クライアントのリモート・システムへのインストール方法に応じて、次のいずれかを実行します。
 - リモート・システムに構成マネージャー・サーバーとクライアントの両方がある場合、次のコマンドを発行します。

```
./config_client.sh -hostname cm_hostname [-port cm_port]
```
 - WebSphere Commerce インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、構成クライアントをリモート・システム上にインストールした場合、次のコマンドを発行します。

```
./configClient.sh -hostname cm_hostname [-port cm_port]
```

ここで、変数は以下のように定義されます。

hostname

構成マネージャーにアクセスするマシンの完全修飾ホスト名。

cm_hostname

構成マネージャー・サーバー・マシンの完全修飾ホスト名。

cm_port

構成マネージャー・サーバーの始動時に指定したポート。

`-port` パラメーターはオプションです。`-port` パラメーターを指定しない場合、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して X サーバーにアクセスする許可を与えることが必要かもしれません。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから `root` として次のコマンドを発行します。

xhost +host_name

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- e. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin** で、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインする場合には、パスワードを変更するかどうか尋ねられます。

次のステップ

このセクションのステップが完了したなら、次のセクションを続けます。

- 67 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 71 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce インスタンスの変更については、114 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」の下の、*hostname* を拡張表示します。
3. 「**Commerce**」を拡張表示します。
4. 「**インスタンス・リスト**」を右マウス・ボタン・クリックします。
5. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「**インスタンスの作成**」を選択します。インスタンス作成ウィザードを開始します。
6. インスタンス作成ウィザードを完了します。



インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされる WebSphere Commerce プラットフォームすべてに適用されます。

7. パネル内の必要な情報を完成させると、「**終了**」ボタンが有効になります。「**終了**」をクリックして WebSphere Commerce インスタンスを作成します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

8. インスタンス作成が完了すると、要約を含むダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックして、ダイアログ・ウィンドウをクローズします。
ダイアログの内容を確認してください。インスタンスを使用する前に実行する必要のある追加の説明が含まれている場合があります。
9. 「**コンソール**」および「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

68 ページの『インスタンス作成の検証』の順に従って、WebSphere Commerce インスタンスの作成を検証できます。

インスタンス作成の検証

新規 WebSphere Commerce インスタンスの構成情報は、次のファイルに格納されます。

`WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は `v` ページの『パス変数』にリストされていて、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

インスタンス作成の際に作成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認してください。

WebSphere Commerce インスタンスを作成すると、次のログ・ファイルが生成されます。

- auction.log
- createdb.log
- createdb.db2.log
- createdb.production.log
- createsp.log
- createsp.err.log
- EnterpriseApp.log
- GenPluginCfg.log
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbnl.err.log
- populatedbnl.log
- reorgdb2.log
- reorgdb2.err.log
- trace.txt
- sec_check.log
- WASConfig.log
- WASConfig.err.log

このファイルは、次のディレクトリーにあります。

`WC_installdir/instances/instance_name/logs`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は `v` ページの『パス変数』にリストされていて、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

次のログが空の場合には、インスタンス作成のデータベース移植については成功です。

- createsp.err.log
- populatedb.err.log

- populatedb2.err.log
- populatedbnl.err.log
- reorgdb2.err.log
- WASConfig.err.log

さらに、次のログの内容を確認し、エラーが含まれていないことを確かめてください。

- createdb.log
- createsp.log
- createdb.db2.log

次のステップ

ご使用の WebSphere Commerce インスタンスを構成したなら、WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して継続してください。WebSphere Commerce Payments の作成に関する説明は、71 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』にあります。

第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更については、114 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

特定の WebSphere Commerce Payments Cassette の使用に関する詳細は、WebSphere Commerce Payments Cassette supplements を参照してください。WebSphere Commerce Payments Cassette を WebSphere Commerce サンプル・ストアで使用するには、「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」を参照してください。

注: 63 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』で述べられているように、WebSphere Application Server 管理コンソールではなく WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用して、WebSphere Commerce Payments ポートのみを変更してください。これにより、すべてのプロパティおよびファイルは同じ情報で更新されます。

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。


WebSphere Commerce Payments が WebSphere Commerce の別のノードにある場合には、構成マネージャー・サーバーを WebSphere Commerce Payments ノード上で始動してください。

2. 「**WebSphere Commerce**」を拡張表示します。
3. ご使用のホスト名を拡張表示します。
4. 「**Payments**」を拡張表示します。
5. 「**インスタンス・リスト**」を右マウス・ボタン・クリックします。
6. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「**Payments インスタンスの作成**」を選択します。Payments インスタンス作成ウィザードを開始します。
7. Payments インスタンス作成ウィザード情報を完成させます。



Payments インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされる WebSphere Commerce プラットフォームすべてに適用されます。

重要: WebSphere Commerce Payments インスタンス作成ウィザードを完了する際、「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力する値が WebSphere Commerce サイト管理者 ID と同じであることを確認してください。 WebSphere Commerce サイト管理者 ID は WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成され、 WebSphere Commerce インスタンス作成ウィザードの「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力した値です。

8. すべてのパネル内の必要な情報すべてを完成させると、「**終了**」ボタンが有効になります。「**終了**」をクリックして WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。
9.  既存の DB2 データベースを使用することを選択する場合、データベースを移植するかが尋ねられます。データベースを移植する場合には「**はい**」を選択し、データベースを移植しない場合には「**いいえ**」を選択します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

10. 「**コンソール**」および「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

『インスタンス作成の検証』の手順に従って、 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成を検証できます。

インスタンス作成の検証

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成情報は、次のファイルに格納されます。

```
WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ここで、*WC_installdir* のデフォルト値は *v* ページの『パス変数』にリストされていて、*instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

インスタンス作成の際に作成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成すると、次のログ・ファイルが生成されます。

- *createdb.log*
- *createdb.err.log*

このファイルは、次のディレクトリーにあります。

```
WC_installdir/instances/instance_name/logs
```

ここで、*WC_installdir* のデフォルト値は *v* ページの『パス変数』にリストされていて、*instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

createdb.err.log ファイルが空の場合には、インスタンス作成は成功です。

さらに、*createdb.log* ログ・ファイルの内容を確認し、エラーが含まれていないことを確かめてください。

次のステップ

WebSphere Commerce Payments インスタンスを構成したなら、75 ページの『第 5 部 最終ステップ』の説明に従って続行できます。

リモート Web サーバーを使用している場合には、77 ページの『第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク』の手順に従う必要があります。

第 5 部 最終ステップ

このセクションでは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後に実行する必要がある必須タスクについて概説しています。さらにこのセクションでは、実行するよう推奨される追加のタスクに関する情報を提供します。

第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク

ご使用の WebSphere Commerce トポグラフィーに応じて、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後、次のいずれかのセクションのタスクを実行します。

- 『インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク』
- 『インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク』

インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールする場合、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成後、Web サーバーを停止してから再始動する必要があります。

インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と異なるノードにインストールする場合、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成してから、次の事柄を実行してください。

1. `plugin-cfg.xml` を WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。手順については、125 ページの『Web サーバーへの `plugin-cfg.xml` ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別々のノードにインストールされている場合には、WebSphere Commerce Payments ノードの `plugin-cfg.xml` ファイルの内容と Web サーバー・ノードの `plugin-cfg.xml` の内容をマージします。手順については、125 ページの『WebSphere Commerce Payments `plugin-cfg.xml` ファイルのマージ』を参照してください。
3. WebSphere Commerce ノード上の `WAS_installdir` ディレクトリーと一致するディレクトリーを Web サーバー・ノードに作成します (存在しない場合)。
4. 次のディレクトリーを、WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/cell_name/WC_Commerce_instance_name.ear
```

ここで、変数は次のように定義されています。

WAS_installdir

この変数のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

cell_name

これは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments がインストールされているマシンの短縮ホスト名です。

Commerce_instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

Web サーバー・ノードと WebSphere Commerce ノードの絶対パスは同じであることを確認してください。

重要

すべての JSP および JAR ファイルを、Web サーバー上の `WC_Commerce_instance_name.ear` ディレクトリーから除去することが推奨されています。内容が固定されたファイルのみを、Web サーバー上の `WC_Commerce_instance_name.ear` ディレクトリーに入れるようにしてください。

5. IBM HTTP Server ユーザーの場合、`httpd.conf` ファイルの次の行がコメント化されていないことを確認します。

```
AddModule mod_ibm_ssl.c
```

```
Listen 80
```

6. WebSphere Application Server プラグインのパスが Web サーバー・ノードの `httpd.conf` ファイルに正しく表示されていることを確認します。

パスを検査するには、テキスト・エディターで `httpd.conf` ファイルをオープンし、以下を検索します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノードの `plugin-cfg.xml` ファイルへの絶対パスを含めてください。パスが間違っている場合、パスを変更して `httpd.conf` ファイルを保管してから、Web サーバーを再始動します。

7. Web サーバーを停止してから再始動します。

第 15 章 インスタンス作成後の推奨タスク

インスタンス作成後の必須タスクが完了したなら、次のタスクを実行して WebSphere Commerce のインストールおよび構成を継続できます。

WebSphere Commerce インストールのセキュリティの確認

セキュリティは、WebSphere Commerce サイトのプロダクションの重要なコンポーネントです。SSL (Secure Sockets Layer) の使用可能化、WebSphere Application Server セキュリティー、シングル・サインオンおよびインストールでの他のセキュリティ・オプションの構成に関する説明は、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce Technical Library から入手可能です。詳しくは、151 ページの『WebSphere Commerce Technical Library』を参照してください。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの公開

WebSphere Commerce では、WebSphere Commerce の多様な機能を示すため数多くのサンプル・ストアが準備されています。WebSphere Commerce サンプル・ストアは、WebSphere Commerce に慣れるために使用できますし、カスタマイズしたストアを開発するベースとしても使用できます。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの公開については、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの『ストア・アーカイブの発行』を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発については、「*WebSphere Commerce ストア開発ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce Technical Library から入手可能です。詳しくは、151 ページの『WebSphere Commerce Technical Library』を参照してください。

注: IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 では一部のサンプル・ストアの公開は、WebSphere Commerce 管理コンソールによって行われます。

WebSphere Commerce で提供されている付属ソフトウェアのインストール

WebSphere Commerce では、WebSphere Commerce を拡張して追加の機能を提供する、付属ソフトウェア・パッケージが数多く準備されています。WebSphere Commerce で提供されている付属ソフトウェアの詳細については、「*WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce Technical Library から入手可能です。詳しくは、151 ページの『WebSphere Commerce Technical Library』を参照してください。

拡張構成タスクの実行

WebSphere Commerce の拡張構成には、統合、クラスター化、および複数インスタンスが含まれています。拡張構成については、81 ページの『第 6 部 拡張構成オプション』で取り上げられています。

第 6 部 拡張構成オプション

このセクションには、以下のような WebSphere Commerce 用のオプションの拡張構成に関する手順が記載されています。

- 83 ページの『第 16 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』
- 89 ページの『第 17 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』
- 97 ページの『第 18 章 WebSphere Commerce のクラスター化』

第 16 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

WebSphere Commerce は、複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成をサポートします。すなわち、WebSphere Commerce を使用すると、それぞれの WebSphere Commerce インスタンスごとに異なるホスト名を使用することにより、WebSphere Commerce の複数のインスタンスを並行して実行できます。この場合、顧客は *host1.domain* および *host2.domain* にアクセスできます。この方法には、仮想ホスト名 の使用が関係しています。

WebSphere Commerce での支払いを処理するために WebSphere Commerce Payments を使用している場合、WebSphere Commerce の各インスタンスに独自の WebSphere Commerce Payments のインスタンスが必要になります。作成するすべての新規 WebSphere Commerce インスタンスに対しても、新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要があります。

この章で説明されているように、複数インスタンスは主に、情報を共有しない異なる WebSphere Commerce を発生させるために使用されます。各インスタンスは固有のものとなります。同じ WebSphere Commerce インスタンスの複数の複製を発生させるためには、97 ページの『第 18 章 WebSphere Commerce のクラスター化』を参照してください。

WebSphere Commerce コンポーネントの任意の構成において複数インスタンスを作成することは可能ですが、この章の情報は、WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連した WebSphere Commerce Payments インスタンスは同じノードに存在するという想定をしています。リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用する複数の WebSphere Commerce インスタンスについては、説明されていません。この章の説明では、Web サーバーが WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードに存在するという想定もしています。

この章の情報は、さらに既存の WebSphere Commerce インスタンスおよび既存の WebSphere Commerce Payments インスタンスがあるという想定もしています。この章の説明は、追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することに焦点が当てられています。

この章では、仮想ホスト名を使用した複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成について説明するとき、以下の変数が使用されます。

| | 元のインスタンス | 新規インスタンス |
|-------------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| WebSphere Commerce インスタンス名 | <i>WC_instance_1</i> | <i>WC_instance_2</i> |
| WebSphere Commerce Payments インスタンス名 | <i>Payments_instance_1</i> | <i>Payments_instance_2</i> |
| IP アドレス | xxx.xxx.xxx.xxx | yyy.yyy.yyy.yyy |
| ホスト名 | <i>host1</i> | <i>host2</i> |

| | 元のインスタンス | 新規インスタンス |
|-------------------------------------|---------------------|---------------------|
| ドメイン・ネーム | <i>domain</i> | <i>domain</i> |
| 完全修飾ホスト名 | <i>host1.domain</i> | <i>host2.domain</i> |
| WebSphere Commerce データベース名 | <i>WC_db1</i> | <i>WC_db2</i> |
| WebSphere Commerce Payments データベース名 | <i>Payments_db1</i> | <i>Payments_db2</i> |

最初と 2 番目のインスタンスは、インスタンス間で値が固有または共通である場所を示すことを意図しているため、上記の変数はパラメーター値を表します。

通常、操作用にすでに存在する WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスがあり、さらに 1 つまたは複数の追加インスタンスを作成したいと思うことでしょう。すでに存在するインスタンスがある場合、追加インスタンスを追加するためにすでに存在するインスタンスのパラメーター値を変更する必要はありません。複数インスタンス環境をより良く編成するために、元のインスタンスの中の幾つかのパラメーターを変更することはあるかもしれませんが。

前提条件

仮想ホスト名を使用して WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments の複数インスタンスを作成する各ノードにおいて、以下の要件を満たしているかを確認してください。

- 各 WebSphere Commerce インスタンスは独自のホスト名を持つ必要があります。このホスト名は、関連した WebSphere Commerce Payments インスタンスによっても使用されます。
- それぞれのインスタンスのそれぞれのホスト名には、独自の IP アドレスが必要です。IP アドレスはネットワーク上で有効である必要があります。関連付けられたホスト名が DNS サーバーになければなりません。さらに IP アドレスは、元のインスタンスの IP アドレスと同じ VLAN 上になければなりません。



- 1 つのインスタンス用のノードの IP アドレスおよびホスト名も使用する必要があるかもしれません。この場合には、2 つのインスタンス用の 2 つの IP アドレスが必要となります。
- WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの各セットは、独自のホスト名が必要です。

注: IBM HTTP Server は、ホスト名に下線文字 (_) の使用を許可していません。

マシンに別の IP アドレスを追加することに関する説明は、ご利用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

- インスタンスごとにホスト名を指定することにより、完全に別個の IP アドレスに解決されるはずですが、たとえば、WebSphere Commerce 構成マネージャーを実行して複数インスタンスを作成できるかを検証するために、インスタンスごとにホスト名および IP アドレスの両方に対して nslookup コマンドを実行します。

以下のように、ホスト名はその正確な IP アドレスに解決され、IP アドレスはその正確なホスト名に解決されるはずです。

```
nslookup 'host1.domain'
nslookup 'xxx.xxx.xxx.xxx'
```

```
nslookup 'host2.domain'
nslookup 'yyy.yyy.yyy.yyy'
```

- 1 つのシステム上の追加の WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連した WebSphere Commerce Payments インスタンスごとに、システムのメモリーを 512MB 増やします。
- 1 つのシステム上の追加の WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連した WebSphere Commerce Payments インスタンスごとに、システムのページング・スペースを 1 つのプロセッサにつき 1GB 増やします。

複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成

すでに最初の WebSphere Commerce インスタンスを作成済みであると想定すると、67 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』の説明に従い、必要なそれぞれの追加インスタンスを作成できます。以下の表では、既存のインスタンスは**元のインスタンス**と記述され、新規インスタンスは**新規インスタンス**と記述されています。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce インスタンスを同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成できます。

以下の表では、新規インスタンスの変更されたデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスで使用する実際の値に置き換えてください。

| 構成マネージャーのフィールド | 元のインスタンス | 新規インスタンス |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------|
| インスタンス - インスタンス名 | WC_instance_1 | WC_instance_2 |
| インスタンス - インスタンスのルート・パス (Instance root path) | WC_installdir/ instances/ WC_instance_1 | WC_installdir/instances/ WC_instance_2 |
| データベース - データベース名 (Database name) | WC_db1 | WC_db2 |
| Web サーバー - ホスト名 | host1.domain | host2.domain |
| Web サーバー - 1 次文書ルート (IBM HTTP Server) | HTTP_installdir/htdocs1 | HTTP_installdir/htdocs2 |
| WebSphere Commerce Payments - ホスト名 | host1.domain | host2.domain |

WC_installdir および IBM HTTP Server のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

68 ページの『インスタンス作成の検証』の指示に従って、必ずインスタンスの作成を検証してください。

WebSphere Commerce での支払いを処理するために WebSphere Commerce Payments を使用している場合、追加の WebSphere Commerce インスタンスごとに WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要があります。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

すでに最初の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成済みであると想定すると、71 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の説明に従い、必要なそれぞれの追加インスタンスを作成できます。以下の表では、既存のインスタンスは**元のインスタンス**と記述され、新規インスタンスは**新規インスタンス**と記述されています。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスを同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成できます。

以下の表では、新規インスタンスの変更されたデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスで使用する実際の値に置き換えてください。

| 構成マネージャーのフィールド | 元のインスタンス | 新規インスタンス |
|---------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| インスタンス - インスタンス名 | <i>Payments_instance_1</i> | <i>Payments_instance_2</i> |
| データベース - データベース名 (Database name) | <i>Payments_db1</i> | <i>Payments_db2</i> |
| Web サーバー - ホスト名 | <i>host1.domain</i> | <i>host2.domain</i> |
| WebSphere Commerce - ホスト名 | <i>host1.domain</i> | <i>host2.domain</i> |
| Web サーバー - 1 次文書ルート (IBM HTTP Server) | <i>HTTP_installdir/htdocs1</i> | <i>HTTP_installdir/htdocs2</i> |

72 ページの『インスタンス作成の検証』の指示に従って、必ずインスタンスの作成を検証してください。

追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスの検証後、インスタンスをテストしてください。

複数インスタンスのテスト

元のインスタンスおよび新規インスタンスをテストするには、以下のようにしてください。

1. すべての WebSphere Commerce インスタンスを開始する。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. すべての WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始する。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
3. 次の URL をテストする。

| 元のインスタンス | 新規インスタンス |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> • <code>http://host1.domain</code> • <code>http://host1.domain:5432/webapp/PaymentManager</code> • <code>https://host1.domain</code> • <code>https://host1.domain:5433/webapp/PaymentManager</code> • <code>https://host1.domain:8000/accelerator</code> • <code>https://host1.domain:8002/adminconsole</code> • <code>https://host1.domain:8004/orgadminconsole</code> | <ul style="list-style-type: none"> • <code>http://host2.domain</code> • <code>http://host2.domain:5432/webapp/PaymentManager</code> • <code>https://host2.domain</code> • <code>https://host2.domain:5433/webapp/PaymentManager</code> • <code>https://host2.domain:8000/accelerator</code> • <code>https://host2.domain:8002/adminconsole</code> • <code>https://host2.domain:8004/orgadminconsole</code> |

第 17 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments は、WebSphere Application Server 基本商品と共にインストールされます。WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments は、基本 WebSphere Application Server ノードとみなされます。

WebSphere Application Server Network Deployment は、アプリケーション・サーバーを WebSphere Application Server 管理コンソールから開始できるようにする機構を提供します。この機構は、アプリケーション・サーバー・ノードの連合 と呼ばれます。アプリケーション・サーバー・ノードは、セル に連合され、セル内のすべてのアプリケーション・サーバーは、デプロイメント・マネージャー により管理されます。デプロイメント・マネージャーもアプリケーション・サーバーです。セルは、デプロイメント・マネージャー・セル とも呼ばれます。

WebSphere Commerce ノードおよび WebSphere Commerce Payments ノードを単一のデプロイメント・マネージャー・セルに連合させることにより、両方のアプリケーション・サーバーを WebSphere Application Server 管理コンソールから開始、停止、管理することができます。WebSphere Application Server 管理コンソールは、ブラウザ・ベースのアプリケーションであるため、Web ブラウザーを持つセルとして、同じネットワーク上の任意のマシンからアクセスできます。WebSphere Application Server 管理コンソールの Web ブラウザー要件については、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce を連合させる前に、WebSphere Application Server 管理構成をバックアップすることを強くお勧めします。管理構成をバックアップすることにより、連合処理中に連合が失敗した場合に元の構成を復元することが可能になります。詳しくは、次の URL から使用可能な WebSphere Application Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』のトピックを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

WebSphere Commerce の連合

WebSphere Commerce をデプロイメント・マネージャー・セルに連合させるには、以下のようにしてください。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーをインストールしたマシンとは別個のマシンに WebSphere Application Server Network Deployment 製品をインストールする。このマシンは、デプロイメント・マネージャーをホスティングするようになります。

1 つのシステムだけがデプロイメント・マネージャーをホスティングします。デプロイメント・マネージャーは、アプリケーション・サーバーを連合させる時、管理対象のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシンに他のアプリケーション・サーバーをインストールすることは可能ですが、両方の製品をホスティングするだけの能力があるマシンを持っているのでないかぎり、一般的にそれは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中心的な管理マネージャーです。

WebSphere Application Server Network Deployment のインストールの説明は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」で入手できます。このブックは、WebSphere Application Server Network Deployment CD の docs ディレクトリーから PDF ファイルとして入手できます。

重要: WebSphere Application Server Network Deployment のインストール時に、WebSphere Commerce README ファイルに文書化されているすべての WebSphere Application Server フィックスを必ず適用してください。README ファイルについての詳細は、14 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合の後に WebSphere Commerce が正しく機能しません。

2. WebSphere Commerce ノードおよび WebSphere Application Server Network Deployment ノードに root としてログインしていることを確認する。
3. WebSphere Application Server Network Deployment マシン上でデプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
4. 次のコマンドを発行することにより、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合させる。

```
WAS_installdir/bin/addNode.sh
    deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
```

コマンドは表示の目的だけのため複数の行に表示され、1 行にコマンドを入力します。

コマンド内の変数およびパラメーターは、次のように定義されます。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen するポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルトのポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の条件が 1 つ以上当てはまる場合には、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込まれている WebSphere Commerce ノードに WebSphere Commerce ではないアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce インスタンスが WebSphere Commerce ノードに存在する。 WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合には、このパラメーターは不要です。



メモリー不足エラーを受け取った場合、問題を正すための情報について、146 ページの『addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

5. WebSphere Commerce インスタンスを含む WebSphere Commerce ノードの連合が完了しており、それらの WebSphere Commerce インスタンスがデプロイメント・マネージャー・セルに連合中である場合、ノード上の WebSphere Commerce インスタンスごとに WebSphere Commerce マシンに対して次のコマンドを発行することにより、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーが必要な仮想ホストを作成する。

```
WC_installdir/bin/createVirtualHosts.sh instance_name
```

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

注: このステップは、WebSphere Commerce インスタンスが連合中のノードに存在する場合のみ実行する必要があります。セルに連合中の 1 つのノードしかインスタンスを持ってません。

このステップは、追加の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに追加する時には不要ですし、ノードに WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合にも不要です。

6. 重要な WebSphere Commerce ファイルの許可を訂正する。これは、次のコマンドを WebSphere Commerce マシン上で root として発行することにより行います。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

重要: このコマンドを発行する前に、アプリケーション・サーバーが稼働していないことを確認してください。

7. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーのプロセス実行ユーザー ID およびグループを変更する。手順については、94 ページの『プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連合させた後、121 ページの『WebSphere Application Server

Network Deployment の元でのアプリケーション・サーバーの開始および停止』の説明に従うことにより、WebSphere Commerce を開始および停止することができます。

WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce Payments をデプロイメント・マネージャー・セルに連合させるには、以下のようにしてください。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーをインストールしたマシンとは別個のマシンにまだ WebSphere Application Server Network Deployment 製品をインストールしていない場合は、ここで行う。

1 つのシステムだけがデプロイメント・マネージャーをホスティングします。デプロイメント・マネージャーは、アプリケーション・サーバーを連合させる時、管理対象のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシンに他のアプリケーション・サーバーをインストールすることは可能ですが、両方の製品をホスティングするだけの能力があるマシンを持っているのではないが、一般的にそれは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中心的な管理マネージャーです。

WebSphere Application Server Network Deployment のインストールの説明は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」で入手できます。このブックは、WebSphere Application Server Network Deployment CD の docs ディレクトリーから PDF ファイルとして入手できます。

重要: WebSphere Application Server Network Deployment のインストール時に、WebSphere Commerce README ファイルに文書化されているすべての WebSphere Application Server フィックスを必ず適用してください。README ファイルについての詳細は、14 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合の後に WebSphere Commerce Payments が正しく機能しません。

2. WebSphere Commerce Payments ノードおよび WebSphere Application Server Network Deployment ノードに root としてログインしていることを確認する。
3. WebSphere Application Server Network Deployment ノード上でデプロイメント・マネージャー・アプリケーション・サーバーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
4. 次のコマンドを発行することにより、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合させる。

```
WAS_installdir/bin/addNode.sh
  deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
```

コマンドは表示の目的だけのため複数の行に表示され、1 行にコマンドを入力します。

コマンド内の変数およびパラメーターは、次のように定義されます。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen するポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルトのポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の条件が 1 つ以上当てはまる場合には、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込もうとしている WebSphere Commerce ノードに WebSphere Commerce Payments ではないアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce Payments インスタンスが WebSphere Commerce Payments ノードに存在する。 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合には、このパラメーターは不要です。



メモリー不足エラーを受け取った場合、問題を正すための情報について、146 ページの『addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

5. WebSphere Commerce Payments インスタンスを含む WebSphere Commerce Payments ノードの連合が完了している場合、 WebSphere Commerce Payments マシンに対して次のコマンドを発行することにより、 WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーが必要な仮想ホストを作成する。

```
WC_installdir/payments/bin/createPaymentsVirtualHost.sh instance_name
```

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。 WebSphere Commerce Payments インスタンスのデフォルト名は、wpm です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

このステップは、ノードに WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合に不要です。

6. 重要な WebSphere Commerce Payments ファイルの許可を訂正する。これは、次のコマンドを WebSphere Commerce マシン上で発行することにより行います。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

このコマンドを発行する前に、アプリケーション・サーバーが稼働していないことを確認してください。

7. WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーのプロセス実行ユーザー ID およびグループを変更する。手順については、『プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連合させた後、121 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment の元でのアプリケーション・サーバーの開始および停止』の説明に従うことにより、WebSphere Commerce Payments を開始および停止することができます。

プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更

WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments のアプリケーション・サーバー・ノードをセルに連合させた後、プロセス実行ユーザーおよびグループを、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではない WebSphere Commerce ユーザー ID およびグループに変更する必要があります。

デプロイメント・マネージャー・セルに追加したノードごとに、この節にある指示を実行する必要があります。

セル内のノード用のプロセス実行ユーザー ID およびグループを変更するには、以下のようにしてください。

1. アプリケーション・サーバー・ノードに root としてログインしていることを確認する。
2. アプリケーション・サーバー・ノード上で、ノード・エージェントを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server Network Deployment マシン上でデプロイメント・マネージャー・アプリケーション・サーバーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション領域で「**サーバー (Servers)**」を拡張表示し、「**アプリケーション・サーバー (Application Servers)**」をクリックする。「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」ページが表示されます。
6. 「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」で、アプリケーション・サーバーの名前をクリックする。アプリケーション・サーバーのページが表示されます。

WebSphere Commerce では、アプリケーション・サーバー名は `WC_commerce_instance_name` です。ここで、`commerce_instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Commerce Payments では、アプリケーション・サーバー名は `payments_instance_name_Commerce_Payments_Server` です。ここで、`payments_instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

7. アプリケーション・サーバーのページの「追加プロパティ (Additional Properties)」の表で、「プロセス定義 (Process Definition)」をクリックする。「プロセス定義 (Process Definition)」ページが表示されます。
8. 「プロセス定義 (Process Definition)」ページの「追加プロパティ (Additional Properties)」表で、「プロセスの実行 (Process Execution)」を実行する。「プロセスの実行 (Process Execution)」ページが表示されます。
9. 「ユーザーとして実行 (Run as user)」フィールドで、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID を入力する。
10. 「グループとして実行 (Run as group)」フィールドで、root ではないユーザー ID が属するユーザー・グループを入力する。
11. 「OK」をクリックする。
12. 管理コンソール・タスクバーで「保管」をクリックします。
13. 「保管」ページで、「変更をノードと同期する (Synchronize changes with Node)」を選択する。
14. 「保管」ページで、「保管」をクリックする。
15. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
16. アプリケーション・サーバー・ノードで以下を行うことにより、ノード・エージェントを root ではないユーザーとして再始動する。
 - a. ノード・エージェントを停止する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
 - b. 以下のコマンドを発行することにより、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID にユーザーを切り替える。


```
su - non_root_user_ID
```

ここで、*non_root_user_ID* は WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID です。
 - c. ノード・エージェントを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。

セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去

アプリケーション・サーバー・ノードがクラスターのメンバーである場合、アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去する前に、アプリケーション・サーバー・ノードをクラスターから除去する必要があります。

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去する場合、以下のようにしてください。

1. セルの各ノードでノード・エージェントを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。

2. WebSphere Application Server Network Deployment マシン上でデプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。

3. アプリケーション・サーバー・ノードのマシン上で以下のコマンドを発行する。

```
WAS_installdir/bin/removeNode.sh
```

`WAS_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされていません。



メモリー不足エラーを受け取った場合、問題を正すための情報について、146 ページの『removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

`removeNode` コマンドは、ノード固有の構成をセルから除去するだけです。このコマンドは、`addNode` コマンドを実行した結果としてインストールされたアプリケーションはアンインストールしません。なぜならそうしたアプリケーションはその後、ネットワーク・デプロイメント・セルの追加されたサーバーに展開している可能性があるからです。

`removeNode` コマンドについての詳細は、WebSphere Application Server 資料を参照してください。

第 18 章 WebSphere Commerce のクラスター化

この章では、WebSphere Application Server Network Deployment クラスター化機構の使用法を説明しています。

WebSphere Commerce は、WebSphere Commerce Server をインストールすることを
選択したノードごとに基本 WebSphere Application Server 製品をインストールしま
す。WebSphere Commerce をインストールした後、WebSphere Application Server
Network Deployment 製品を別のマシンにインストールする必要があります。

この章では、WebSphere Commerce 用の以下のタイプのクラスター化について説明
します。

- 99 ページの『水平的な複製におけるクラスター化』
- 100 ページの『垂直的な複製におけるクラスター化』

WebSphere Commerce Payments はクラスター化をサポートしないため、WebSphere
Commerce をクラスター化する時、クラスター内の各 WebSphere Commerce ノード
は同じ WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用する必要があります。
しかしながら、WebSphere Commerce Payments を WebSphere Commerce で管理す
るためには、92 ページの『WebSphere Commerce Payments の連合』にある指示に
従って、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを同じデプ
ロイメント・マネージャー・セルに WebSphere Commerce クラスターとして連合さ
せることができます。

クラスター化についての詳細は、WebSphere Application Server Network Deployment
の資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce をクラスター化する前に、WebSphere Application Server
管理構成をバックアップすることを強くお勧めします。管理構成をバックアッ
プすることにより、クラスター化処理中にクラスター化が失敗した場合に元の
構成を復元することが可能になります。詳しくは、WebSphere Application
Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』の
トピックを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

次のページにある図では、WebSphere Commerce の 5 ノードのカスタム・インスト
ールにおけるクラスター化を示しています。

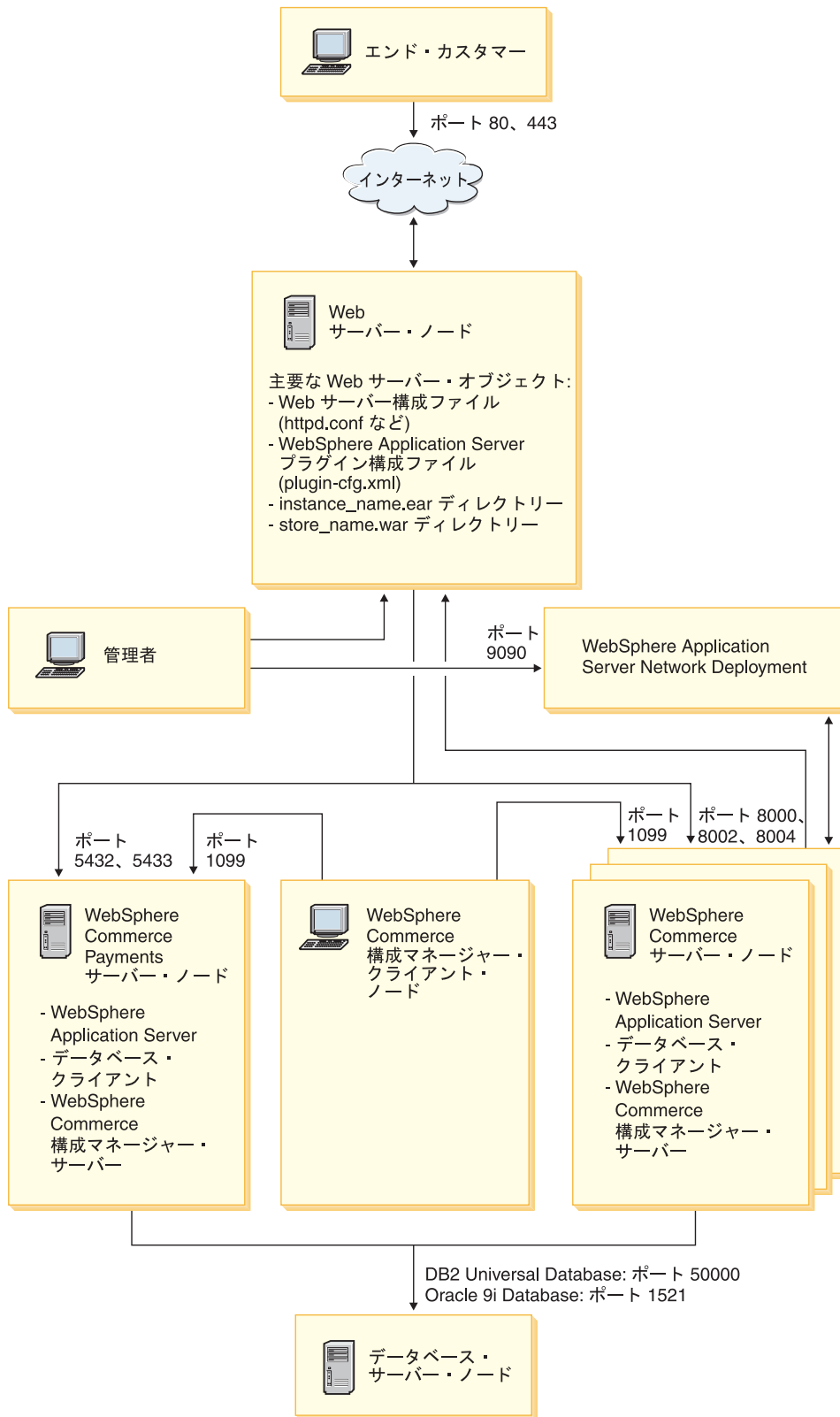


図 3. クラスタ化した 5 ノードのカスタム・インストール

水平的な複製におけるクラスター化

水平的な複製におけるクラスター化とは、複数の物理マシン上のアプリケーション・サーバーの複製を定義するための従来からの慣行で、その定義により、単一アプリケーションが単一システム・イメージを持ちながらも幾つかのマシンをまたいで動作することが可能になります。水平的な複製におけるクラスター化により、スループットを増加させ、高可用性を提供することができます。

水平的な複製においてクラスター化をする場合、リモート Web サーバーおよびリモート・データベースの両方を使用することをお勧めします。

水平的な複製を持つクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了する。手順については、23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連させます。手順については、89 ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成する。手順については、61 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. クラスターに追加するノードごとに追加の水平的な複製を準備する。手順については、100 ページの『水平的な複製の準備』を参照してください。
5. WebSphere Commerce クラスターを作成する。手順については、101 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
6. クラスター・メンバーごとに JDBC プロバイダー・パスを確認する。手順については、102 ページの『JDBC プロバイダー・パスの確認』を参照してください。
7. Web サーバー・プラグインを再生成する。手順については、103 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する』を参照してください。
8. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
9. WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報のコピー』を参照してください。

重要

水平的な複製を持つクラスターにストアを発行する前に、109 ページの『WebSphere Commerce クラスターへのストアの発行』を確認してください。

垂直的な複製におけるクラスター化

垂直的な複製におけるクラスター化とは、同じ物理マシン上のアプリケーション・サーバーの複製を定義するための慣行です。経験によると、単一の Java 仮想マシン (JVM) プロセスにより実装される単一のアプリケーション・サーバーは、大規模マルチプロセッサ・マシンの CPU 能力を十分に使用することは必ずしもできません。垂直的な複製のクラスター化により、複数の JVM プロセスを作成するための直接的な機構が提供されます。これらをまとめて使用可能なすべての処理能力を十分に使用できます。

垂直的な複製においてクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了する。手順については、23 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合させる。手順については、89 ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成する。手順については、61 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. WebSphere Commerce クラスターを作成する。手順については、101 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
5. Web サーバー・プラグインを再生成する。手順については、103 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する』を参照してください。

水平的な複製の準備

この節は、水平的な複製におけるクラスター化のみに適用されます。

水平的な複製におけるクラスター化の一部として、WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントを、水平的な複製を含むクラスターの一部となるマシンごとにインストールする必要があります。

水平的な複製を準備するには、以下のようになしてください。

1. WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントを水平的な複製をホスティングするマシンにインストールする。これを行うために、WebSphere Commerce インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用します。カスタム・インストールを完了するための説明は、53 ページの『第 9 章 カスタム・インストールの実行』にあります。
カスタム・インストールを行うときにデータベースとして DB2 を使用する場合、インストール・ウィザードは、DB2 管理クライアントおよび WebSphere Commerce Server コンポーネントをマシンにインストールします。
2. WebSphere Commerce データベースに新規 WebSphere Commerce ノードからアクセスできることを確認する。

リモート WebSphere Commerce データベース・ノードおよびリモート WebSphere Commerce データベースをカタログする必要があるかもしれません。手順については、133 ページの『リモート DB2 データベースのカタログ』を参照してください。

重要: WebSphere Commerce インスタンスを新規 WebSphere Commerce ノードに作成しないでください。

WebSphere Commerce クラスターの作成

この節の説明では、元の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを含む新規クラスターを作成します。このクラスターの作成後、追加ノードをクラスターに作成できます。

新規 WebSphere Commerce クラスターを作成するには、以下のようになります。

1. ノード・エージェントが開始済みでない場合、クラスターに追加したいノードごとにそれを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。各ノード・エージェントは、必ず WebSphere Commerce の root ではないユーザーとして開始してください。
2. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**サーバー (Servers)**」を拡張表示し、「**クラスター (Clusters)**」をクリックする。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. 「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページで、「**新規**」をクリックする。「新規クラスターの作成 (Create New Cluster)」ページが表示されます。
6. 「**クラスター名 (Cluster Name)**」フィールドにクラスターの名前を入力する。
7. 「**既存のサーバー (Existing server)**」フィールドで、「このクラスターに追加する既存のアプリケーション・サーバーを選択する (**Select an existing application server to add to this cluster**)」を選択し、既存のサーバーのリストでプルダウン・リストから WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを選択する。リスト内の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー名は、以下の形式で表示されます。

cell_name/machine_name/WC_instance_name

ここでそれぞれの意味は以下のとおりです。

cell_name

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーが属するセルの名前。

machine_name

WebSphere Commerce マシンの短縮ホスト名。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前。

8. 「次へ」をクリックする。「新規クラスター化サーバーの作成 (Create New Clustered Servers)」ページが表示されます。
9. 「メンバー名 (Member Name)」フィールドに、作成する新規 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力する。
10. 「ノードの選択 (Select Node)」フィールドから、新規 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードを作成するマシンの名前を選択する。
水平的なクラスター化では、マシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前とは異なる名前となります。
垂直的なクラスター化では、マシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前となります。
11. 「HTTP ポート (Http Ports)」フィールドで、「固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)」が選択済みであることを確認する。
新規クラスター・メンバーを作成する時に設定できるその他のパラメーターについての情報は、WebSphere Application Server Network Deployment 資料を参照してください。
12. 「適用」をクリックする。
13. さらにクラスター・メンバーを追加したい場合には、追加するクラスター・メンバーごとにステップ 9 から 12 までを繰り返す。
14. クラスター・メンバーを追加し終えたら、「次へ」をクリックする。
15. 「終了」をクリックする。
16. 管理コンソール・タスクバーで「保管」をクリックする。
17. 「保管」ページで、「変更をノードと同期する (Synchronize changes with node)」を選択する。
18. 「保管」ページで、「保管」をクリックする。
19. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。

JDBC プロバイダー・パスの確認

クラスター・メンバーごとに、JDBC プロバイダー・パスが正確に設定されていることを確認します。それを行わないと、クラスターが正しく機能しないこともあります。

クラスター・メンバーの JDBC プロバイダー・パスを確認するには、以下のようになります。

1. ノード・エージェントが開始済みでない場合、WebSphere Application Server Network Deployment により管理されるシステムごとにノード・エージェントを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。

2. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「リソース (Resources)」を拡張表示し、「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」をクリックする。「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」ページが表示されます。
5. 「ノード (Node)」フィールドに、クラスター・メンバーが存在するマシンの名前を入力する。これは通常、アプリケーション・サーバーが実行されるマシンの名前と同じ名前です。

使用可能なノードのリストについては、「ブラウズ (Browse)」をクリックします。
6. 「サーバー (Server)」フィールドに、JDBC プロバイダー・パスをチェックするアプリケーション・サーバーの名前を入力する。これは、クラスター・メンバーのメンバー名です。

使用可能なアプリケーション・サーバーのリストについては、「ブラウズ (Browse)」をクリックします。
7. 「適用」をクリックする。JDBC プロバイダーのリストが最新表示されます。
8. 以下の JDBC プロバイダーをクリックする。

instance_name - WebSphere Commerce JDBC Provider

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。
9. 「Classpath」フィールドに表示されているパスが、クラスター・メンバーが存在するマシンの JDBC ドライバーへの絶対パスであることを確認する。

表示されているパスが正確である場合、「キャンセル」をクリックします。
表示されているパスが誤りである場合、以下のようにします。

 - a. JDBC ドライバーへの正確なパスを「Classpath」フィールドに入力する。
 - b. 「OK」をクリックする。
 - c. 管理コンソール・タスクバーで「保管」をクリックする。
 - d. 「保管」ページで、「変更をノードと同期する (Synchronize changes with node)」を選択する。
 - e. 「保管」ページで、「保管」をクリックする。
10. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。

WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する

この節のすべてのタスクを、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザーとして実行します。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、以下のようにします。

1. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。

2. ノード・エージェントが開始済みでない場合、WebSphere Application Server Network Deployment により管理されるシステムごとにノード・エージェントを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション領域で「**環境 (Environment)**」を拡張表示し、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックする。
6. 「**OK**」をクリックして新規 plugin-cfg.xml ファイルを生成する。
7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
8. テキスト・エディターで plugin-cfg.xml ファイルをオープンする。
plugin-cfg.xml ファイルは、以下のディレクトリーにあります。

```
WAS_ND_installdir/config/cells
```

plugin-cfg.xml ファイルにあるすべての絶対パス情報を確認してください。すべての絶対パス情報は、WebSphere Commerce ノードの WebSphere Application Server 情報の絶対パスと一致していなければなりません。

たとえば、新規に生成された plugin-cfg.xml ファイルの幾つかの要素に /opt/WebSphere/DeploymentManager を含んでいるのに、WebSphere Application Server が WebSphere Commerce ノード上の /opt/WebSphere/AppServer にインストール済みである場合、plugin-cfg.xml ファイルに出現するすべての /opt/WebSphere/DeploymentManager を /opt/WebSphere/AppServer に変更します。

すべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。

9. 再生成された plugin-cfg.xml ファイルを、WebSphere Application Server Network Deployment マシンから Web サーバーにコピーする。手順については、125 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
10. WebSphere Commerce Payments が同じデプロイメント・マネージャー・セルに WebSphere Commerce クラスターとして連合されていない場合、WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルの内容を Web サーバー上の新規 plugin-cfg.xml ファイルとマージする。手順については、125 ページの『WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

注: WebSphere Commerce Payments と元の WebSphere Commerce ノードが別のマシン上にある場合、このステップをスキップします。

11. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを開始する。

インスタンス情報のコピー

水平的なクラスタのそれぞれの WebSphere Commerce の複製ごとに、 WebSphere Commerce インスタンス・ストア情報を元の WebSphere Commerce ノードからクラスタ・メンバーにコピーする必要があります。

この節のすべてのタスクを、 WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザーとして実行します。

この節のステップは、クラスタ内にストアを発行した後にも必ず行う必要があります。

インスタンス情報を水平的な複製にコピーするには、以下のようにしてください。

1. クラスタが実行中の場合は、クラスタを停止する。手順については、108 ページの『WebSphere Commerce クラスタの開始と停止』を参照してください。
2. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリの内容を水平的な複製にある同じディレクトリにコピーする。

`WC_installdir/instances/instance_name`

ここで、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

4. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを開始する。
5. クラスタを開始する。手順については、108 ページの『WebSphere Commerce クラスタの開始と停止』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報のコピー

水平的なクラスタのそれぞれの WebSphere Commerce の複製ごとに、 WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードからクラスタ・メンバーにコピーする必要があります。

この節のすべてのタスクを、 WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザーとして実行します。

この節のステップは、クラスタ内にストアを発行した後にも必ず行う必要があります。

アプリケーション情報およびストア情報を水平的な複製にコピーするには、以下のようにしてください。

1. クラスタが実行中の場合は、クラスタを停止する。手順については、108 ページの『WebSphere Commerce クラスタの開始と停止』を参照してください。
2. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリの内容を水平的な複製にある同じディレクトリにコピーする。

`WAS_installdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear`

ここで、変数は以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、*v* ページの『パス変数』にリストされています。

cell_name

これは、デプロイメント・マネージャー・セルの名前です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

4. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを開始する。
5. クラスターを開始する。手順については、108 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始と停止』を参照してください。

追加クラスター・メンバーの追加

この節の説明では、101 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』で作成したクラスターにさらにメンバーを追加する方法について説明します。

追加クラスター・メンバーを追加するには、次のようにします。

1. 水平的な複製をクラスターに追加したい場合は、100 ページの『水平的な複製の準備』にあるタスクを完了する。
2. ノード・エージェントが開始済みでない場合、クラスターに追加したいノードごとにそれを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
各ノード・エージェントは、必ず WebSphere Commerce の root ではないユーザーとして開始してください。
3. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション領域で「**サーバー (Servers)**」を拡張表示し、「**クラスター (Clusters)**」をクリックする。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
6. クラスターが停止していることを確認する。クラスターが停止していない場合、クラスター名を選択し、「**停止**」をクリックする。
7. クラスター名をクリックする。
8. 「追加プロパティ (Additional Properties)」の表で、「**クラスター・メンバー (Cluster Members)**」をクリックする。
9. 「クラスター・メンバー (Cluster Members)」ページで、「**新規**」をクリックする。
10. 「**メンバー名 (Member Name)**」フィールドに、作成する新規 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力する。

11. 「**ノードの選択 (Select Node)**」フィールドから、新規 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードを作成するマシンの名前を選択する。
水平的なクラスター化では、マシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前とは異なる名前です。
垂直的なクラスター化では、マシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前です。
12. 「**HTTP ポート (Http Ports)**」フィールドで、「**固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)**」が選択済みであることを確認する。
新規クラスター・メンバーを作成する時に設定できるその他のパラメーターについての情報は、WebSphere Application Server Network Deployment 資料を参照してください。
13. 「**適用**」をクリックする。
14. 追加の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードをクラスターに作成するには、ノードの新しい名前を「**メンバー名 (Member name)**」フィールドに入力して、「**適用**」をクリックする。
このクラスターに作成したいすべての WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成が完了するまでこのステップを繰り返します。
15. 「**次へ**」をクリックする。
16. 「**終了**」をクリックする。
17. 管理コンソールの上部にあるメニューの「**保管**」をクリックする。「保管」ページが表示されます。
18. 「保管」ページで、「**変更をノードと同期する (Synchronize changes with node)**」を選択する。
19. 「保管」ページで、「**保管**」をクリックする。
20. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
21. Web サーバー・プラグイン構成ファイルを再生成する。手順については、103 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する』を参照してください。
22. 再生成された plugin-cfg.xml ファイルを、WebSphere Application Server Network Deployment マシンから Web サーバーにコピーする。手順については、125 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
23. 追加の新しい水平的な複製をクラスターに追加する場合、以下のようになります。
 - a. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの新しい水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
 - b. WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの新しい水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報のコピー』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスターの開始と停止

この節のすべてのタスクを、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザーとして実行します。

WebSphere Commerce クラスターを開始または停止するには、以下のようにします。

1. ノード・エージェントが開始済みでない場合、クラスター内のノードごとにそれを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始し、コンソールにログオンする。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**サーバー (Servers)**」を拡張表示し、「**クラスター (Clusters)**」をクリックする。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. 開始または停止するクラスターの隣のチェック・ボックスを選択し、「**開始 (Start)**」または「**停止 (Stop)**」をクリックする。

クラスター・メンバーの除去

アプリケーション・サーバー・ノードをクラスターから除去するには、以下のようになしてください。

1. ノード・エージェントが開始済みでない場合、クラスター内のノードごとにそれを開始する。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
ノード・エージェントを、必ず WebSphere Commerce の root ではないユーザーとして各ノードで開始してください。
2. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**サーバー (Servers)**」を拡張表示し、「**クラスター (Clusters)**」をクリックする。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. クラスターのリストから、メンバーシップを変更するクラスターを選択する。クラスター・プロパティ・ページが表示されます。
6. 「追加プロパティ (Additional Properties)」の表で、「**クラスター・メンバー (Cluster members)**」をクリックする。「クラスター・メンバー (Cluster members)」ページが表示されます。

7. クラスターから除去するクラスター・メンバーを選択し、「削除」をクリックする。
8. 管理コンソール・タスクバーで「保管」をクリックする。
9. 「保管」ページで、「変更をノードと同期する (Synchronize changes with node)」を選択する。
10. 「保管」ページで、「保管」をクリックする。
11. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
12. Web サーバー・プラグインを再生成し、そのプラグインを Web サーバーにコピーする。手順については、103 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスターへのストアの発行

水平的な複製を持つクラスターへのストアの発行

水平的な複製を持つクラスターにストアを発行するには、次のようにします。以下のステップにおいて、元の *WebSphere Commerce* ノード とは、SAR ファイルを含め、発行したいストアのすべての情報を含むノードを言います。

1. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードからそれぞれの水平的な複製にコピーする。手順については、105 ページの『WebSphere Commerce アプリケーション情報およびストア情報のコピー』を参照してください。
3. ストアを発行する。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの公開については、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの『ストア・アーカイブの発行』を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発についての情報は、「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」を参照してください。このブックは、WebSphere Commerce Technical Library から入手可能です。詳しくは、151 ページの『WebSphere Commerce Technical Library』を参照してください。

垂直的な複製を持つクラスターへのストアの発行

垂直的な複製を持つクラスターにストアを発行する時は、追加のステップは必要ありません。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの公開については、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの『ストア・アーカイブの発行』を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発についての情報は、「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」を参照してください。このブックは、WebSphere Commerce Technical Library から入手可能です。詳しくは、151 ページの『WebSphere Commerce Technical Library』を参照してください。

第 7 部 インストールおよび管理タスク

このセクションには、WebSphere Commerce のインストールおよび管理の際に実行する必要のあるさまざまなタスクについての手順を記載しています。

第 19 章 WebSphere Commerce のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Commerce タスクの説明をしています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. Web サーバーが開始済みであることを確認する。
3. 開始したい WebSphere Commerce インスタンス用のアプリケーション・サーバーを開始、停止、または再始動する。アプリケーション・サーバーの開始および停止についての説明は、119 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』にあります。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなるがありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. Web サーバーが開始済みであることを確認する。
3. 構成マネージャーを開始する。構成マネージャーの開始に関する説明は、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
4. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」→「**ホスト名**」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」の順に拡張表示する。
5. 開始または停止したい WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を右マウス・ボタン・クリックする。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始するには、ポップアップ・メニューから「**Payments インスタンスの開始**」を選択する。「インスタンスは正常に開始されました」ダイアログが表示されたら、「**OK**」をクリックしてダイアログを消します。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを停止するには、ポップアップ・メニューから「**Payments インスタンスの停止**」を選択する。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなるがありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更

WebSphere Commerce インスタンスのいずれかの構成設定を変更したい場合、構成マネージャーから行えます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. 構成マネージャーを開始する。構成マネージャーの開始に関する説明は、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択する。構成マネージャーのさまざまなフィールドやパネルについての情報は、構成マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。
4. インスタンスの更新後、「適用」をクリックして変更を適用する。
5. 変更が正常に適用された時、構成マネージャー・クライアントを終了する。これにより、構成マネージャー・サーバーも終了します。
6. 変更したインスタンスを再始動する。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce が停止していることを確認する。WebSphere Commerce の停止についての説明は、113 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. WebSphere Commerce インスタンスをデプロイメント・マネージャー・セルから削除する場合、WebSphere Commerce インスタンスをデプロイメント・マネージャー・セルから除去する。手順については、95 ページの『セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去』を参照してください。
3. 以下のディレクトリーにあるすべての重要な、またはカスタマイズされたファイルをバックアップする。

```
WC_installdir/instances/instance_name
WAS_installdir/logs/WC_instance_name
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

ここで、*instance_name* は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

4. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce インスタンスを削除する。
 - a. 構成マネージャーを開始する。構成マネージャーの開始に関する説明は、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「ホスト名」→「Commerce」→「インスタンス・リスト」の順に拡張表示する。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「インスタンスの削除」を選択する。
 - d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了する。

5. 以下のいずれかを行う。

WebSphere Commerce がスタンドアロン (連合されていない) 環境で実行されている場合

コマンド・プロンプトから以下のコマンドを送出して *WebSphere Commerce* アプリケーション・サーバーを削除する。

```
WC_installdir/bin/rmCommerceServer.sh instance_name
```

ここで、*instance_name* は、削除する *WebSphere Commerce* インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

重要

このコマンドは、*WebSphere Commerce* 用に作成された root ではないユーザーとして実行してください。

さらに、*WebSphere Commerce* アプリケーション・サーバーの名前ではなく、必ず *WebSphere Commerce* インスタンスの名前を入力してください。

WebSphere Commerce インスタンスの名前が *instance_name* であるとき、*WebSphere Commerce* アプリケーション・サーバーの名前は **WC_instance_name** です。

WC_instance_name を使用すると、エラー・メッセージを受け取ります。

WebSphere Commerce が連合されている環境で実行されている場合

WebSphere Application Server Network Deployment 管理コンソールを使用して *WebSphere Commerce* アプリケーション・サーバーを削除する。

WebSphere Application Server Network Deployment 管理コンソールの開始に関する説明は、121 ページの『*WebSphere Application Server* 管理コンソールの開始』を参照してください。

WebSphere Application Server Network Deployment 管理コンソールでアプリケーション・サーバーを削除するための説明は、*WebSphere Application Server Network Deployment* 資料を参照してください。

6. 削除する *WebSphere Commerce* インスタンスに関連した *WebSphere Commerce* データベースを除去する。

削除する *WebSphere Commerce* インスタンスに関連した *WebSphere Commerce* データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce データベースを除去する場合、DB2 コマンド・ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name
db2 uncatalog db db_name
```

ここで、*db_name* は WebSphere Commerce データベースの名前です。

7. 以下のディレクトリーのいずれかが存在する場合、それらを削除する。

```
WC_installdir/instances/instance_name
WAS_installdir/logs/WC_instance_name
```

ここで、*instance_name* は、削除済み WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

8. (オプション) 削除中のインスタンスと同じ名前で、後で新規 WebSphere Commerce を作成する計画をしている場合、以下のディレクトリーがまだ存在しているなら削除する。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

9. 以下のようにして、IBM HTTP Server `httpd.conf` ファイルからすべての WebSphere Commerce 情報を除去する。

- a. テキスト・エディターで `httpd.conf` をオープンする。
- b. 以下のテキストで区切られるすべてのセクションを除去する。
IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section)

```
# End of IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section) #
```

ファイル内にはそのテキストで区切られる複数のセクションがあります。

- c. 変更を保管し、テキスト・エディターを終了する。
- d. IBM HTTP Server ノードが WebSphere Commerce ノードとは離れている場合、IBM HTTP Server ノード上で以下のディレクトリーを削除する。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

ここで、*instance_name* は、削除中の WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

- e. Web サーバーを再始動する。
10. WebSphere Commerce インスタンスを削除した後、他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する計画をしている場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要があります。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、122 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除

WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce Payments が停止していることを確認する。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除する。

- a. 構成マネージャーを開始する。構成マネージャーの開始に関する説明は、63 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
- b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「ホスト名」 → 「**Payments**」 → 「インスタンス・リスト」の順に拡張表示する。
- c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「**Payments インスタンスの削除**」を選択する。
- d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了する。

このステップにより、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーも削除されます。

3. 削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースを除去する。

削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce Payments データベースを除去する場合、DB2 コマンド・ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name
db2 uncatalog db db_name
```

ここで、*db_name* は WebSphere Commerce Payments データベースの名前です。

4. 以下のディレクトリーが存在する場合、それらを削除する。

```
WC_installdir/instances/instance_name
WC_installdir/payments/instances/instance_name
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server
WAS_installdir/installedApps/hostname/instance_name_Commerce_Payments_App.ear
```

ここで、*instance_name* は、削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

5. 以下のようにして、IBM HTTP Server httpd.conf ファイルからすべての WebSphere Commerce Payments 情報を除去する。

- a. テキスト・エディターで httpd.conf をオープンする。
- b. 以下のテキストで区切られるすべてのセクションを除去する。

```
# IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) #

# End of IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) #
```

ファイル内にはそのテキストで区切られる複数のセクションがあります。

- c. 変更を保管し、テキスト・エディターを終了する。
6. WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除した後、他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する計画をしている場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要がある。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、122 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

第 20 章 WebSphere Application Server のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Application Server タスクの説明をしています。

アプリケーション・サーバーの開始および停止

アプリケーション・サーバーを開始または停止するには、次のようにします。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力する。

```
su - non_root_user  
cd WAS_installdir/bin
```

non_root_user

WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID です。

WAS_installdir

WebSphere Application Server または WebSphere Application Server Network Deployment のインストール・ディレクトリーです。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

3. 以下のいずれかを行う。

- アプリケーション・サーバーを開始するには、以下のコマンドを入力する。

```
./startServer.sh application_server_name
```

- アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のコマンドを入力する。

```
./stopServer.sh application_server_name
```

ここで、

application_server_name

開始するアプリケーション・サーバーの名前です。

| アプリケーション・サーバー名 | 説明 |
|----------------------------------|---------------------------------------------------|
| <i>WC_commerce_instance_name</i> | WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー |
| server1 | デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー |

ここで、*commerce_instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注: WebSphere Commerce ノードが WebSphere Application Server Network Deployment セルに連合されている場合、このコマンドを使用して WebSphere Commerce を開始することはできません。WebSphere Application Server Network Deployment セルに連合され

ているときに WebSphere Commerce を開始するための説明は、121 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment の元でのアプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。

WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止

WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーを開始または停止するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力する。

```
cd WAS_ND_installdir/bin
```

```
WAS_ND_installdir
```

WebSphere Application Server Network Deployment のインストール・ディレクトリーです。 *WAS_installdir* のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

3. 以下のいずれかを行う。
 - デプロイメント・マネージャーを開始するには、以下のコマンドを入力する。

```
./startManager.sh
```
 - デプロイメント・マネージャーを停止するには、以下のコマンドを入力する。

```
./stopManager.sh
```

WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止

WebSphere Application Server ノード・エージェントを開始または停止するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID としてログインしていることを確認する。
2. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
3. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力する。

```
su - non_root_user  
cd WAS_installdir/bin
```

```
WC_non_root_user
```

WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID です。

```
WAS_installdir
```

WebSphere Application Server または WebSphere Application Server Network Deployment のインストール・ディレクトリーです。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

4. 以下のいずれかを行う。
 - ノード・エージェントを開始するには、以下のコマンドを入力する。

```
./startNode.sh
```

- ノード・エージェントを停止するには、以下のコマンドを入力する。
`./stopNode.sh`

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

以下の条件下で WebSphere Application Server 管理コンソールを開始することができます。

連合されたアプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、以下を開始する必要があります。

- それぞれの連合されたノード上での WebSphere Application Server ノード・エージェント。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
- WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャー。手順については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。

スタンドアロン (連合されていない) アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー (server1) を開始する必要があります。手順については、119 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。

Web ブラウザーをオープンし、以下の URL を入力することにより、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。

```
http://hostname:port/admin
```

または

```
https://hostname:port/admin
```

ここで、*hostname* は WebSphere Application Server を実行中のマシンの完全修飾 TCP/IP 名で、*port* は WebSphere Application Server 管理コンソールの TCP/IP ポートです。

WebSphere Application Server 管理コンソールのデフォルト・ポートは、URL で指定されたプロトコルに依存しています。http プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9090 です。https プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9043 です。

WebSphere Application Server Network Deployment の元でのアプリケーション・サーバーの開始および停止

この節の説明は、セルに連合されたアプリケーション・サーバーのみに適用されます。セルへのアプリケーション・サーバー・ノードの連合についての詳細は、WebSphere Application Server Network Deployment を参照してください。

この節の説明は、アプリケーション・サーバーのクラスターを開始または停止する時には適用されません。アプリケーション・サーバーのクラスターを開始または停止に関する説明は、108 ページの『WebSphere Commerce クラスターを開始と停止』を参照してください。

デプロイメント・マネージャー・セルへの WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーおよび WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーの連合についての情報は、89 ページの『第 17 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』を参照してください。

WebSphere Application Server Network Deployment の下でアプリケーション・サーバーを開始するには、WebSphere Application Server Network Deployment マシン上で次のようにします。

1. ノード・エージェントが開始済みでない場合、WebSphere Application Server Network Deployment により管理されるシステムごとにノード・エージェントを開始する。
2. 開始済みでない場合、デプロイメント・マネージャーを開始する。説明については、120 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment デプロイメント・マネージャーの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始し、コンソールにログオンする。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「サーバー (Servers)」を拡張表示し、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」をクリックする。「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」ページが表示されます。
5. 開始または停止するアプリケーション・サーバーの隣のチェック・ボックスを選択し、「開始 (Start)」または「停止 (Stop)」をクリックする。以下の表では、使用可能となる可能性がある WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをリストしています。

| アプリケーション・サーバー名 | 説明 |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <i>WC_commerce_instance_name</i> | WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー |
| <i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i> | WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー |

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成

この節のすべてのタスクを、WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザーとして実行します。

この節の説明は、WebSphere Application Server Network Deployment の下で、連合されたまたはクラスター化された環境で WebSphere Commerce または WebSphere

Commerce Payments を操作する時は適用されません。それらの環境で Web サーバー・プラグインを生成するための情報は、103 ページの『WebSphere Application Server Network Deployment に Web サーバー・プラグインを再生成する』を参照してください。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、WebSphere Commerce ノード上で以下のようにします。

1. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。
2. 開始済みでない場合、デフォルトのアプリケーション・サーバーである `server1` を開始する。説明については、119 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、121 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**環境 (Environment)**」を拡張表示し、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックする。
5. 「**OK**」をクリックして新規 `plugin-cfg.xml` ファイルを生成する。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
7. WebSphere Commerce Payments が別のノード上にある場合、これらすべてのステップを WebSphere Commerce Payments ノードで繰り返す。

Web サーバー・ノードが WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードから離れている場合、以下を行う必要があります。

1. プラグインを WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーする。詳細は、125 ページの『Web サーバーへの `plugin-cfg.xml` ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別個のノードにある場合、WebSphere Commerce Payments プラグインを WebSphere Commerce プラグインにマージする。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce Payments `plugin-cfg.xml` ファイルのマージ』を参照してください。

第 21 章 リモート Web サーバー・タスク

このセクションでは、WebSphere Commerce とは異なるノードで実行している Web サーバーを使用する場合に、実行する必要のあるタスクについて説明します。

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー

plugin-cfg.xml ファイルをリモート Web サーバーにコピーするには、以下を行います。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。
2. 使用する構成に応じて、WebSphere Commerce ノードにある以下のファイルを Web サーバー・ノードの同じロケーションにコピーします。

| | |
|------------------------------------|-----------------------------------------------|
| クラスター環境での WebSphere Commerce | WAS_ND_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml |
| クラスター以外の環境での WebSphere Commerce | WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml |

WAS_installdir および WAS_ND_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

重要: plugin-cfg.xml ファイルにはディレクトリー固有の情報が含まれます。ファイルを Web サーバー・ノードの同じディレクトリー構造にコピーしない場合、Web サーバーは正しく機能せず、WebSphere Commerce にアクセスできなくなります。

3. WebSphere Application Server プラグインのパスが Web サーバー・ノードの httpd.conf ファイルに正しく表示されていることを確認します。
パスを検査するには、テキスト・エディターで httpd.conf ファイルを開き、以下を検索します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml ファイルへの絶対パスが含まれていなければなりません。パスが誤っている場合、パスを変更してから httpd.conf ファイルを保管します。

4. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを始動します。

異なるノードで WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を使用してカスタム・インストールで作業する場合、『WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を継続します。

WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルのマージ

WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルを Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルとマージするには、以下のようになります。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。

2. Web サーバー・ノードで、テキスト・エディターで `plugin-cfg.xml` ファイルを開きます。 `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

`WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

`WAS_installdir` のデフォルト値は、 `v` ページの『パス変数』にリストされています。

3. テキスト・エディターの WebSphere Commerce Payments ノードから、 `plugin-cfg.xml` ファイルを開きます。 `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

`WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

4. WebSphere Commerce Payments `plugin-cfg.xml` ファイルに以下のテキストを配置します。

```
<VirtualHostGroup Name="VH_PYM_instance_name">
  <VirtualHost Name="short_host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="short_host_name:5433"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5433"/>
</VirtualHostGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの完全修飾ホスト名です。

5. この節を Web サーバー `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。この節を、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
6. WebSphere Commerce Payments `plugin-cfg.xml` ファイルに以下のテキストを配置します。

```
<ServerCluster Name="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster">
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9081" Protocol="http">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9091" Protocol="http">
  </Server>
  <PrimaryServers>
    <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
  </PrimaryServers>
</ServerCluster>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

IP_address

これは WebSphere Commerce Payments ノードの TCP/IP アドレスです。

- この節を Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルにコピーします。この節を、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルに以下のテキストを配置します。

```
<UriGroup Name="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs">  
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/SampleCheckout/*">  
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/PaymentManager/*">  
</UriGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- この節を Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルにコピーします。この節を、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルに以下のテキストを配置します。

```
<Route ServerCluster="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster"  
  UriGroup="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs"  
  VirtualHostGroup="VH_PYM_instance_name"/>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- この節を Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルにコピーします。この節を、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
- Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを始動します。

ストア発行後のタスク

リモート Web サーバーを使用する場合、WebSphere Commerce でストアを発行するたびに以下を行う必要があります。

- Web サーバー・ノードの Stores.war ディレクトリーの内容を WebSphere Commerce の Stores.war ディレクトリーの内容と置換します。
両方のノードの Stores.war ディレクトリーへの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_installdir/installedApps/node_name/WC_instance_name.ear/Stores.war
```

変数は以下のように定義されます。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

node_name

これは WebSphere Commerce ノードの短いホスト名です。

instance_name

これは WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Commerce インスタンスの作成後に、WC_*instance_name*.ear ディレクトリーを Web サーバー・ノードにコピーする必要があります。

第 22 章 パスワードの設定および変更

WebSphere Commerce のほとんどのコンポーネントは、オペレーティング・システムによって検証されたユーザー ID およびパスワードを使用します。これらのパスワードの変更について詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。この章では、オペレーティング・システムを通してユーザー ID およびパスワードを検証しない WebSphere Commerce コンポーネントの、パスワードの設定および変更方法について説明します。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャーを起動する際に、ユーザー ID およびパスワードを入力したウィンドウで「変更」をクリックすることによって、構成マネージャー・パスワードを変更できます。

別の方法で、構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードを変更するには、コマンド・ウィンドウで以下のコマンドを発行します。

```
WC_installdir/bin/config_env.sh
java com.ibm.commerce.config.server.PasswordChecker -action action type
  -pwfile password_file -userid user_ID
  -password password [-newpassword new_password]
```

パラメーターは以下のとおりです。

action type

有効なアクションのタイプは、「追加」、「チェック (Check)」、「削除」または「変更」です。

password_file

ファイルが保管されるファイルへのパス。デフォルトのパスは WC_installdir/bin です。

user_ID

これは、パスワードを追加、作成、削除、または変更したいユーザー ID です。

password

これは、追加、作成、削除、または変更したいパスワードです。

new_password

このパラメーターが必要なのは、アクション・タイプとして「変更」を指定した場合のみです。

これは、ユーザー ID に割り当てる新規パスワードです。

WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用することによってパスワードを変更できます。

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用してパスワードを変更するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを始動します。
2. WebSphere Commerce インスタンスを作成したら、サイト管理者 ID およびパスワードでログオンします。
3. 「パスワード変更」チェック・ボックスを選択して、「ログオン」をクリックします。「パスワード変更」ページが表示されます。
4. 「旧パスワード」フィールドで、現在の管理コンソール・ログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。
5. 「新規パスワード」フィールドで、新規のログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。
6. 「新規パスワードの確認」フィールドで、パスワードを再入力します。
7. 「変更」をクリックして、新規パスワードを保管します。「ストアおよび言語の選択」ページが表示されます。
8. WebSphere Commerce 管理コンソールを終了します。

サイト管理者パスワードのリセット

サイト管理者パスワードを忘れてしまい、パスワードをリセットしたい場合、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプト・セッションを始動します。

Bourne シェルを使用していないことを確認します。WebSphere Commerce コマンドは Bourne シェルでは作動しません。WebSphere Commerce コマンドを実行するには、Korn シェルを使用するようお勧めします。

2. 以下のコマンドを発行します。

```
wc_installdir/bin/wcs_password.sh password SALT merchant_key
```

変数は以下のように定義されます。

password

サイト管理者 ID に割り当てたい新規パスワード。

SALT これは使用したいランダムな 12 桁の数値です。この数値はパスワードの暗号化をシードします。

後でサイト管理者用の WebSphere Commerce データベース USERREG テーブル・エントリを更新する際にこの数値を使用するため、この数値を記録します。

マーチャント鍵

これは、WebSphere Commerce インスタンスが作成された際に定義されるマーチャント鍵です。このマーチャント鍵もパスワードの暗号化をシードします。

以下は、コマンドからの出力の例です。

IBM*
Licensed Materials - Property of IBM
5697-A16
(C) Copyrights by IBM and by other(s) 1978, 1997. All Rights Reserved.
* Trademark of International Business Machines Corp.
=== WCS Encrypted Password ===
ASCII Format: pArp97jT4NOXN6MyWswTQpwaPbIFsEWQGwfeu08yIyM=
Hex Format: 7041727039376a54344e4f584e364d79577377545170776d

暗号化されたパスワードの ASCII フォーマット値を記録します。

3. WebSphere Commerce データベースに接続します。

WebSphere Commerce に使用するデータベース管理システムに応じて、下のコマンドのいずれかを発行します。

```
db2 connect to db_name user user_name using password
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベース用の DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID と関連したパスワード。

4. 以下のコマンドを発行して、サイト管理者 ID の USERREG 表にある SALT および LOGONPASSWORD 列を更新します。

```
db2 "update USERREG set LOGONPASSWORD='ASCII_encrypted_string'  
where LOGONID='site_admin_id'"
```

```
db2 "update USERREG set SALT='SALT' where LOGONID='site_admin_id'"
```

変数は以下のように定義されます。

ASCII_encrypted_string

これは、`wcs_password.sh` コマンドから取得された ASCII フォーマット値です。

SALT これは、`wcs_password.sh` コマンドをシードするのに使用した 12 桁のランダムな数値です。

site_admin_id

これは、パスワードをリセットするサイト管理者 ID です。

サイト管理者 ID のリカバリー

WebSphere Commerce インスタンスが作成された際に定義されたサイト管理者 ID を忘れてしまい、サイト管理者として権限が与えられた ID がほかにない場合、サイト管理者 ID を以下の手順でリカバリーできます。

1. WebSphere Commerce に使用するデータベース管理システムに応じて、下のコマンドを発行します。

```
db2 connect to db_name user user_name using password  
db2 select LOGONID from USERREG where USERS_ID=-1000
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベース用の DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID と関連したパスワード。

これらのコマンドは、サイト管理者 ID を戻します。

第 23 章 一般管理用タスク

この章では、WebSphere Commerce を使用する場合に実行する必要がある、一般管理用タスクのいくつかについて説明します。

コマンド行構成タスク

コマンド行全体で、以下のことを行えます。

- インスタンスの更新

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
updateInstance xml_file
```

- インスタンスの削除

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
deleteInstance instance_name
```

- 既存のインスタンスのリスト

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstances
```

- インスタンスに関する情報の検索

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceInfo instance_name
```

- ファイルへのインスタンスの構成情報の印刷

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceConfig instance_name print_to_file_name
```

WC_installdir のデフォルト値は、*v* ページの『パス変数』にリストされています。

注: このセクションのコマンドは、表示のみを目的に複数の行に表示されます。これらの行を 1 行に入力します。

リモート DB2 データベースのカタログ

データベース・クライアント/サーバー接続を使用可能にし、以下のコマンドをデータベース・クライアント・マシンから DB2 コマンド・ウィンドウに入力して、クライアントのノードおよびデータベースをカタログします。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote host_name server port_num  
db2 catalog db db_name at node node_name
```

コマンドの可変情報は以下のように定義されます。

node_name

DB2 が TCP/IP ノードの識別に使用する、選択した固有の名前。ご使用の名前が固有であることを確かめるために、以下のコマンドを DB2 コマンド・ウィンドウに入力できます。

```
db2 list node directory
```

また、応答内で名前を検索します。名前がリストされない場合、それをノード名として使用できます。

host_name

WebSphere Commerce データベースがあるマシンの完全修飾ホスト名。

port_num

TCP/IP 接続を識別するポート番号。ポート番号を判別するには、データベース・サーバー・マシンから以下を行います。

1. データベース・ノードの DB2 コマンド・セッションで、以下のコマンドを発行します。

```
db2 get dbm cfg
```

また SVCENAME の値を確認します (これは、テキスト TCP/IP サービス名によっても識別される)。

2. ご使用のデータベースを実行しているマシンで、サービス・ファイル `¥etc¥services` を開き、前のステップで確認した名前が始まる行を探します。ポート番号が同じ行の 2 列目に表示されます (ストリング `/tcp` が追加されている)。DB2 Universal Database のデフォルトのポート番号は 50000 です。

db_name

リモート・データベースの名前。

デフォルトの WebSphere Commerce データベース名は `Mail` です。

デフォルトの WebSphere Commerce Payments データベース名は `wpm` です。

第 24 章 WebSphere Commerce を管理する際に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce 環境での管理にはさまざまなユーザー ID が必要になります。これらのユーザー ID はその必要権限とともに下のリストで説明されています。WebSphere Commerce ユーザー ID の場合、デフォルトのパスワードが識別されます。

構成マネージャー・ユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すると、WebSphere Commerce の構成方法を変更することができます。デフォルトの構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。

構成マネージャーへは、ご使用の WebSphere Commerce マシン、またグラフィカル・ユーザー・インターフェースをサポートする WebSphere Commerce と同じネットワーク上にあり、構成マネージャー・クライアントがインストールされているマシンからアクセスできます。

WebSphere Commerce 修正パッケージを将来適用する場合、WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーとクライアント・マシンの両方が同じ修正パッケージ・レベルにあることを確認します。

重要: 構成マネージャー・サーバーと構成マネージャー・クライアントの両方を WebSphere Commerce 非 root ユーザー ID の下で始動する必要があります。さらに、構成マネージャー・サーバーまたはクライアントを Bourne シェルで始動することはできません。

WebSphere Commerce サイト管理者

サイト管理者ユーザー ID およびパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

WebSphere Commerce 管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8002/adminconsole`

WebSphere Commerce 組織管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから

WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8004/orgadminconsole`

WebSphere Commerce インスタンスの作成中にサイト管理者の初期ユーザー ID およびパスワードが指定されます。WebSphere Commerce では、サイト管理者パスワードは以下の規則に従ったものでなければなりません。

- パスワードは少なくとも 8 文字の長さである必要があります。
- パスワードには少なくとも 1 つの数字が含まれている必要があります。
- パスワードには同じ文字を 5 つ以上含めることはできません。
- パスワードは同じ文字を 4 回以上繰り返すことはできません。

第 8 部 付録

付録 A. 既知の問題および制限

このセクションでは、WebSphere Commerce に関する既知の問題および制限を扱っています。この資料の作成後に明らかになった問題または制限については、README ファイルを参照してください。

追加のトラブルシューティング情報は、WebSphere Application Server の WebSphere Commerce 用のトレース機能をオンにすることによって収集できます。トレース機能については、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

一般的な問題および制限

WebSphere Commerce コマンドを発行時にエラーを受け取った

Intel プロセッサ・ベースのサーバー上の Linux の場合、WebSphere Commerce コマンドを発行すると以下のエラー・メッセージを受け取る場合があります。

```
bash: ulimit: cannot modify limit: Operation not permitted
```

このエラー・メッセージは無視しても問題ありません。

インストール問題および制限

コンソール・モードでインストールするとフリー・スペース・メッセージが変更されない

インストール・ウィザードをコンソール・モードで実行している場合にインストール・ディレクトリーを変更すると、ディレクトリーに使用可能なフリー・スペースがあることを示すメッセージは更新されず、選択した場所のフリー・スペースが反映されません。

新規の場所に製品をインストールするための十分なフリー・スペースがない場合、「次へ」をクリックするとエラーを受け取ります。

以前のバージョンの DB2 Universal Database がインストールされているマシンで生じるインストール問題

以前に DB2 Universal Database がマシンにインストールされ、現在はアンインストールされている場合、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用して DB2 Universal Database をインストールする前に以下の条件を満たしていることを確認してください。

- 以前のデータベースすべてが、正しく除去およびアンカタログされていることを確認します。
- すべてのデータベース ID が除去されていることを、`dasdrop` および `db2idrop` コマンドを使用して確認します。

これらのコマンドおよびその使用について詳しくは、DB2 Universal Database 資料を参照してください。

- DB2 ポートが `/etc/services` ファイルから除去されていることを確認します。
- 以下のユーザーがシステムに存在しないことを確認します。
 - `db2fwc1`
 - `daswc1`
- 以下のグループがシステムに存在しないことを確認します。
 - `daswgc1`
 - `db2fwcg1`

Web サーバー問題および制限

セキュア (HTTPS) URL が作動しない

WebSphere Commerce 用のセキュア URL のいずれかが作動しない場合、Web サーバーの SSL 証明書が欠落しているか、有効期限が切れている可能性があります。

SSL 証明書のインストールおよび更新について詳しくは、Web サーバー資料を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンス問題および制限

createsp.log ファイルにエラーが含まれる

createsp.log ファイルにエラーが含まれる場合、このセクションの手順に従うことによって、これらのエラーを訂正することができます。

createsp.log ファイルは、以下のディレクトリーにあります。

`WC_installdir/instances/instance_name/logs`

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前を表します。

createsp.log ファイルにエラーが含まれる場合、以下を行います。

1. DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID が DB2 分離ユーザー・グループに属していることを確認します。
グループに属していない場合には、これを追加します。
2. DB2 Universal Database を再始動します。手順については、DB2 Universal Database 資料を参照してください。
3. 端末セッションを開始します。Korn シェルを使用していることを確認します。
4. ディレクトリーを以下に変更します。

`WC_installdir/bin`

5. 以下のコマンドを実行します。

```
./dropsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password  
./createsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password dbschema
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。WebSphere Commerce データベースのデフォルト名は `ma11` です。

db_user_ID

DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID。

db_user_password

db_user_ID に関連したパスワード。

WebSphere Commerce インストール言語以外のデフォルト言語による WebSphere Commerce インスタンスの作成

WebSphere Commerce のインストール中、インストール・ウィザード用に選択された言語は、WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合に使用するデフォルトの言語を設定します。インストール言語以外のデフォルトの言語でインスタンスを作成すると、選択した言語の無効なデータが取り込まれたインスタンスが作成されます。

インストール言語以外のデフォルト言語でインスタンスを作成する場合、以下を行います。

1. テキスト・エディターを開いて、以下のファイルを編集します。

```
WC_installdir/schema/wcs.schema.ws_m1_db2.input  
WC_installdir/schema/wcs.schema2.ws_m1_db2.input
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされています。

2. インストール言語のロケール・コードのすべてのオカレンスを、新規デフォルトのインスタンス言語のロケール・コードと置換します。WebSphere Commerce によって使用されるロケール・コードは、『インスタンス作成用の有効なロケール・コード』にリストされます。
3. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
4. 新規の WebSphere Commerce インスタンスを作成して、新規のデフォルト言語を指定していることを確認します。WebSphere Commerce インスタンスの作成に関する指示は、61 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』で提供されます。

インスタンス作成用の有効なロケール・コード

以下は、インスタンス作成ファイルを更新する際に使用する有効なロケール・コードです。

| 言語 | ロケール・コード |
|-------|----------|
| ドイツ語 | de_DE |
| 英語 | en_US |
| スペイン語 | es_ES |
| フランス語 | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT |
| 日本語 | ja_JP |

| 言語 | ロケール・コード |
|-------------|----------|
| 韓国語 | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

インスタンス作成中にメモリー不足エラーが発生する

インスタンス作成が失敗すると、インスタンス作成中に `java.lang.OutOfMemory` 例外を受け取る可能性があります。以下のログ・ファイルをチェックして、`java.lang.OutOfMemory` 例外がないかどうか調べます。

`WC_installdir/instances/WCSconfig.log`

メモリー不足エラーを訂正するには、以下を行います。

1. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/bin/config_server.sh
```

2. ファイルを検索して以下のテキストがないか調べます。

```
if [ $OS_NAME != "OS400" ]; then
    MAX_HEAP=-Xmx256m
fi
```

3. `MAX_HEAP` の値を増やします。たとえば、256 を 512 というようにです。
4. 変更を保管します。
5. インスタンスを再度作成します。

非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce インスタンスが開始しない

WebSphere Commerce インスタンスを `root` として開始すると、非 `root` ユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを開始できません。

非 `root` ユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを再開できるようにするには、以下を行います。

1. `root` としてログインして、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce を停止します。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされています。

4. 非 `root` ユーザー ID にスイッチします。
5. WebSphere Commerce を開始します。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。

ポート競合をログ内に表示する

WebSphere Commerce インスタンスを開始しようとするすると以下のメッセージが現れる場合があります。

```
EJB6121: Application server did not start
```

以下のディレクトリーに SystemOut.log ファイルがあるかどうか調べます。

```
WAS_installdir/logs/WC_instance_name
```

instance_name は開始できなかった WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

SystemOut.log はすでに使用中のポートを表します。メッセージは以下のようものです。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host, port xxxx.
```

このメッセージの原因として考えられるのは、ポートがすでに使用中であるということです。このポートを使用している他のアプリケーションがないことを確認してから、サーバーを再始動します。

WebSphere Commerce Payments インスタンス問題および制限

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが正しく構成されていない可能性があります。

WebSphere Commerce Payments の構成を検査するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/instances/WC_instance_name/xml/  
WC_instance_name.xml
```

WC_instance_name は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

2. 以下のテキストを検索します。

```
<PaymentManager
```

3. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが WebSphere Commerce Payments によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれていなければなりません。

4. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。

5. WebSphere Commerce Payments ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/instances/Payments_instance_name/xml/  
Payments_instance_name.xml
```

`payments_instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされていません。

- 以下のテキストを検索します。

```
<PMWCSRealm
```
- 見つかったテキストの下の `Hostname` エントリーが WebSphere Commerce によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。
エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれていなければなりません。
- 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
- WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を再開します。
手順については、113 ページの『第 19 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない

WebSphere Application Server がポート 9090 以外のポートを使用するよう構成されている場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスは開始しません。

これが問題の原因であるかどうかを確認するには、以下のようになります。

- テキスト・エディターで以下を開きます。

```
WAS_installdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server/  
SystemOut.log
```

`payments_instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

`WAS_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』にリストされていません。

- ファイルを検索して以下のメッセージがないか調べます。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host *, port 9090.
```

このエラー・メッセージがあった場合、WebSphere Commerce Payments ポートを変更します。手順については、『WebSphere Commerce Payments ポートの変更』を参照してください。

このエラー・メッセージがない場合には、IBM サポート担当員に連絡してください。

WebSphere Commerce Payments ポートの変更

WebSphere Commerce Payments ポートを変更するには、次のようになります。

- WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。
- 「**WebSphere Commerce**」の下の、`hostname` を拡張表示します。

3. 「Payments」→「インスタント・リスト」→ *payments_instance_name* → 「インスタンス・プロパティ」を拡張表示します。
4. 「Webserver」 タブをクリックします。
5. 希望するポートを更新します。
6. 「適用」をクリックして、変更を適用します。

注: すべての Payments ポートは、63 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』で述べられているように、WebSphere Application Server 管理コンソールではなく構成マネージャーを使用して変更してください。これにより、すべてのプロパティおよびファイルは同じ情報で更新されます。

非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない

WebSphere Commerce Payments インスタンスを root として開始すると、非ルート・ユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始できません。

非 root ユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを再開できるようにするには、以下のようにします。

1. root としてログインして、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce Payments を停止します。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
3. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server/
```

instance_name は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

4. 以下のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。

5. 非 root ユーザー ID にスイッチします。
6. WebSphere Commerce Payments を開始します。手順については、113 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。

addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに統合すると、addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す場合があります。これが生じた場合には、以下を行います。

1. addNode.sh コマンドが実行していないことを確認します。
2. root としてログオンします。
3. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WAS_installdir/bin/addNode.sh
```

4. テキスト・ファイルで、以下のテキスト行を検索します。

```
"$JAVA_HOME"/bin/java ¥
```

5. 以下のテキスト行を "\$JAVA_HOME"/bin/java ¥ テキスト行の下に挿入します。

```
-Xmx512m ¥
```

6. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
7. addNode.sh コマンドを実行します。

removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに統合すると、removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す場合があります。これが生じた場合には、以下を行います。

1. removeNode.sh コマンドが実行していないことを確認します。
2. root としてログオンします。
3. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WAS_installdir/bin/removeNode.sh
```

4. テキスト・ファイルで、以下のテキスト行を検索します。

```
"$JAVA_HOME"/bin/java ¥
```

5. 以下のテキスト行を "\$JAVA_HOME"/bin/java ¥ テキスト行の下に挿入します。

```
-Xmx512m ¥
```

6. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
7. removeNode.sh コマンドを実行します。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce コンポーネントは、インストールした時と逆の順序でアンインストールする必要があります。以下の順序で WebSphere Commerce コンポーネントをアンインストールします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーおよびクライアント
これらのコンポーネントは、他のコンポーネントをアンインストールする前に、インストールされたすべてのノードから除去されなければなりません。
2. WebSphere Application Server
3. Web サーバー
4. データベース

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをノードからのアンインストールするには、以下のようにします。

1. 113 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』で説明されている方法で、WebSphere Commerce を停止します。
2. 113 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』で説明されている方法で、WebSphere Commerce Payments を停止します。
3. 114 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの削除』にある指示に従って、WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
4. 116 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除』にある指示に従って、WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
5. *WC_installdir* ディレクトリーまたはそのサブディレクトリー内にファイルを作成またはカスタマイズした場合、またそれらを保存したい場合には、WebSphere Commerce コンポーネントによって使用されていないディレクトリーにそれらをバックアップします。
WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされています。
6. *root* としてログインしている場合、ご使用のハードウェア・プラットフォームに応じて、以下のコマンドのいずれかを発行してアンインストール・ウィザードを始動します。

| ハードウェア・プラットフォーム | コマンド |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Intel ベースのシステム | <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_linux.jar</code> または <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_linux.jar -console</code> |
| @server iSeries システム | <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_ppclinux.jar</code> または <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_ppclinux.jar -console</code> |
| @server pSeries システム | <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_ppclinux.jar</code> または <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_ppclinux.jar -console</code> |
| @server zSeries システム | <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_zlinux.jar</code> または <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_zlinux.jar -console</code> |
| S/390 システム | <code>WC_installdir/_uninst/uninstall_zlinux.jar -console</code> |

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされていません。

WebSphere Commerce の分散インストールの場合、WebSphere Commerce ノード、WebSphere Commerce Payments ノード、WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント・ノードでアンインストール・ウィザードを実行します。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードおよび GUI ベースのアンインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびアンインストール・ウィザードの継続方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および継続に関する指示は、GUI ベースのアンインストール・ウィザード用にのみ提供されます。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したり継続するには、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。

7. プロンプトに従って、アンインストール・ウィザードを完了します。
進む前にアンインストール・ウィザードが完了するのを待機してください。
8. `WC_installdir` ディレクトリが依然としてノード上に存在する場合、それを除去します。
`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』にリストされていません。

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントがインストールされている各ノードで指示を繰り返します。

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールについて詳しくは、「*IBM WebSphere Application Server 概説 バージョン 5*」を参照してください。この資料は WebSphere Application Server ライブラリーを通して入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストール

WebSphere Application Server を WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments ノードからアンインストールする必要があります。

WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストールについて詳しくは、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Version 5 Getting Started*」を参照してください。この資料は WebSphere Application Server ライブラリーを通して入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

IBM HTTP Server のアンインストール

IBM HTTP Server が WebSphere Application Server と同じノードにインストールされている場合、WebSphere Application Server をアンインストールすると、IBM HTTP Server は自動的にアンインストールされます。

IBM HTTP Server のアンインストールについて詳しくは、以下の URL を通じて入手できる Apache インストール・ファイル付き IBM HTTP Server V1.3.26 を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/library.html>

DB2 Universal Database のアンインストール

DB2 Universal Database のアンインストールについて詳しくは、「*IBM DB2 Universal Database Installation and Configuration Supplement*」を参照してください。この資料は DB2 Universal Database ライブラリーを通して入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

注: WebSphere Commerce に付属する DB2 Universal Database CD には .tar ファイルが含まれます。DB2 Universal Database ドキュメンテーションの指示に従うには、CD の内容を一時的なロケーションに `untar` する必要があります。または、DB2 Universal Database CD から実行できるコマンドをこの一時的なロケーションから実行します。DB2 Universal Database をアンインストールしてから、一時的なロケーションを削除します。

付録 C. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムおよびそのコンポーネントについての詳細情報は、さまざまな情報源から異なるフォーマットで入手できます。以下のいくつかのセクションは、入手できる情報やそれにアクセスする方法を示しています。

WebSphere Commerce 情報

以下は、WebSphere Commerce 情報の情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce オンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce をインストールした後、以下の URL にアクセスするとオンライン情報のトピックにアクセスすることができます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

`host_name` は、WebSphere Commerce がインストールされたマシンの完全修飾 TCP/IP ホスト名です。

WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce Technical Library は以下の URL から利用できます。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

本書のコピー、および本書の更新されたバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトのライブラリー・セクションで PDF ファイルとして入手できます。加えて、新規および更新された資料を Web サイトから入手することもできます。

WebSphere Commerce Payments 情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプは、以下のヘルプ・アイコンをクリックして入手できます。



このヘルプ・アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールおよび WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェース、および以下の URL のスタンドアロン WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

WebSphere Commerce Payments は SSL が使用可能である場合、セキュア URL (https) を使用します。そうでない場合、非セキュア URL (http) を使用します。

ヘルプは以下の URL でも入手できます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/doccenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/doccenter.html`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

language

ヘルプ・ページが表示される言語の言語コード。ほとんどの言語が 2 文字です。言語コードは以下のとおりです。

| 言語 | コード |
|-------------|-----|
| ドイツ語 | de |
| 英語 | en |
| スペイン語 | es |
| フランス語 | fr |
| イタリア語 | it |
| 日本語 | ja |
| 韓国語 | ko |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt |

| 言語 | コード |
|-----------|-------|
| 中国語 (簡体字) | zh |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

WebSphere Commerce Payments および Payments Cassette に関する詳細情報は、WebSphere Commerce Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server 情報

IBM HTTP Server 情報は、IBM HTTP Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は HTML 形式、PDF ファイル、またはその両方です。

WebSphere Application Server 情報

WebSphere Application Server 情報は、WebSphere Application Server InfoCenter で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database 情報

HTML ドキュメンテーション・ファイルは、`/doc/locale/html` サブディレクトリの下で入手できます。*locale* は、ご使用のロケールの言語コード (例、米国英語の場合は *en*) です。各国語で使用できないドキュメンテーションはすべて英語で表示されます。

入手可能な DB2 ドキュメンテーションの完全リスト、またその表示方法または印刷方法について詳しくは、「*DB2 Quick Beginnings for UNIX*」資料を参照してください。追加の DB2 情報は、DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は、IBM 認定販売店または営業担当員から購入することができます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario L6G 1C7
Canada*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

IBM ロゴ および以下は、IBM Corporation の商標です。

| | | |
|-----------|------------------------|-------------|
| DB2 | DB2 Universal Database | @server |
| IBM | iSeries | Lotus Notes |
| S/390 | pSeries | RS/6000 |
| WebSphere | zSeries | |

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan